

子どもの放課後の居場所づくりに関する
意識調査

報告書

平成20年12月

福岡市

目 次

第 1 章 調査概要	1
I. 調査の目的.....	1
(1) 留守家庭子ども会事業に関する調査.....	1
(2) 放課後全児童施策に関する調査.....	1
II. 調査対象・方法.....	1
(1) 調査対象.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 調査期間.....	1
(4) 回収状況.....	1
(5) 調査主体.....	2
(6) 調査実施機関.....	2
(7) 調査結果の分析者.....	2
(8) 調査結果利用上の注意.....	2
III. 分析における留意点.....	2
第 2 章 対象児童及び記入者の属性	3
1. 対象児童の学年・性別.....	3
2. 兄弟・姉妹構成.....	3
3. 記入者と子どもとの続柄・年齢.....	4
4. 記入者と配偶者の就労状況.....	4
第 3 章 調査結果	5
I. 留守家庭子ども会事業について.....	5
1. 留守家庭子ども会事業の利用状況.....	5
(1) 利用状況.....	5
(2) 利用区分.....	8
2. 対象学年が拡大された場合の利用意向.....	11
(1) 利用意向.....	11
(2) 利用希望学年.....	14
(3) 希望利用区分.....	17
3. 長期休業中だけの利用意向.....	20

II. 放課後の遊び場づくり事業について	23
1. 放課後の遊び場づくり事業の認知状況	23
(1) 認知状況	23
2. 放課後の遊び場づくり事業への参加意向	26
(1) 参加意向	26
(2) 参加させたくない理由	29
3. ボランティアでの見守りサポーターへの協力意向	34
(1) 協力意向	34
4. 事業内容を検討するにあたり充実させるべき点	37
(1) 充実させるべき点	37
III. 自由回答	42
第4章 調査結果のまとめ	47
I. 調査方法及び回収状況	47
1. 調査方法及び回収状況	47
2. 留守家庭子ども会事業について	47
3. 放課後の遊び場づくり事業について	48
◆参考資料（調査票）	49

第1章 調査概要

I. 調査の目的

(1) 留守家庭子ども会事業に関する調査

留守家庭子ども会の4学年以上への対象学年拡大等について、利用ニーズ等を把握することにより、具体的な検討を行う基礎資料とする。

(2) 放課後全児童施策に関する調査

「放課後の遊び場づくり事業」に対する認知度やニーズ、遊びに対する認識などに関する保護者・児童の意識を把握することにより、放課後等の居場所のあり方についての検討を行う基礎資料とする。

II. 調査対象・方法

(1) 調査対象

福岡市立小学校の全保護者

(2) 調査方法

調査票を全小学校に郵送し、担任教諭から全児童に配布。

担任教諭が回収し、学校ごとに取りまとめたものを訪問して回収。

(3) 調査期間

平成20年9月1日(月)～8日(月)

(4) 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
東 区	15,945	13,588	85.2%
博多区	8,426	7,044	83.6%
中央区	6,560	5,670	86.4%
南 区	13,814	11,736	85.0%
城南区	6,494	5,443	83.8%
早良区	12,815	10,572	82.5%
西 区	11,764	9,775	83.1%
計	75,818	63,828	84.2%

	配布数	有効回収数	有効回収率
1年生	12,932	11,183	86.5%
2年生	12,629	10,662	84.4%
3年生	12,492	10,564	84.6%
4年生	12,710	10,428	82.0%
5年生	12,601	10,469	83.1%
6年生	12,454	10,180	81.7%
計	75,818	63,486	83.7%

※有効回収数に学年不明(342サンプル)は含まず

(5) 調査主体

福岡市こども未来局 こども育成部こども育成課

(6) 調査実施機関

株式会社 西日本リサーチ・センター

(7) 調査結果の分析者

安立 清史(九州大学大学院人間環境学研究院 准教授)

(8) 調査結果利用上の注意

- ①集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%になるとは限らない。
- ②2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- ③数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。
 $N = \text{標本全数}$
 $n = \text{該当数(その質問を回答しなくてよい人を除いた数)}$
- ④数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合がある。
(詳細は巻末の調査票を参照のこと)
- ⑤文中の選択肢の表記は「 」で行う。
- ⑥2つ以上の選択肢を合計して表している比率については、各選択肢の基数(標本数)の合計をもとに算出しているため、選択肢個々の回答比率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。

Ⅲ. 分析における留意点

今回の調査は、当該サービスの利用見込みを把握することが目的の一つであるが、調査結果により得られる数字は、あくまで「保護者の意向」であり、ここで現れた利用希望と実利用見込みの間には、ずれがある可能性が高いことに留意する必要がある。

つまり、実際にサービスを利用するか否かは、「保護者の意向」だけでなく、利用条件との整合や、「子どもの意向」等により変化すると考えられる。

特に、これまでなかったサービスや事業についての「意向調査」では、利用希望が実利用見込みより大きめに現れることがよくあるため、これを踏まえた利用見込みの分析を行うことが必要である。

第2章 対象児童及び記入者の属性

1. 対象児童の学年・性別

図 対象児童の学年

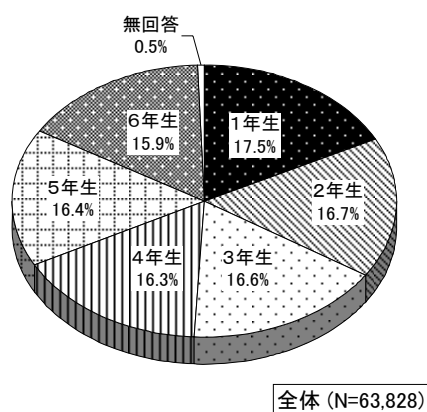
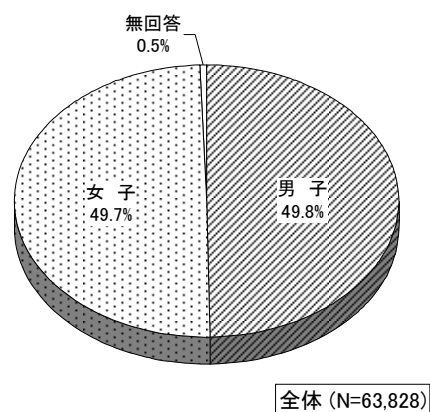


図 対象児童の性別



2. 兄弟・姉妹構成

図 兄弟・姉妹人数

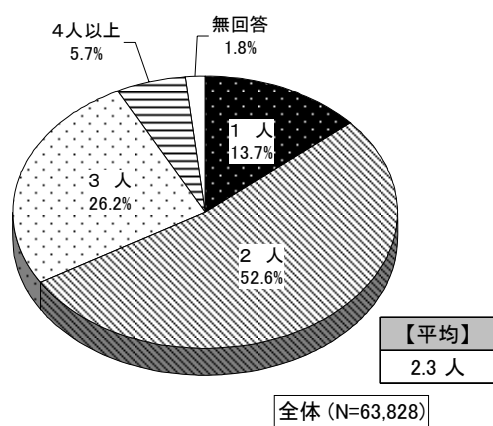
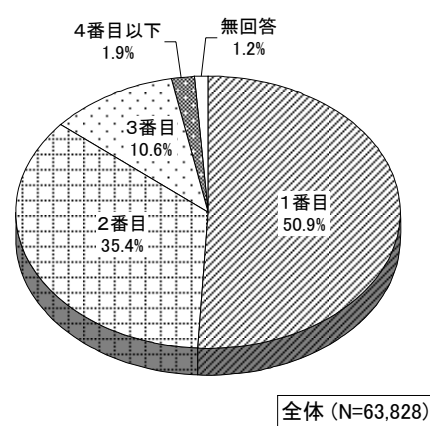


図 対象児童の生まれた順



3. 記入者と子どもとの続柄・年齢

図 記入者と子どもとの続柄

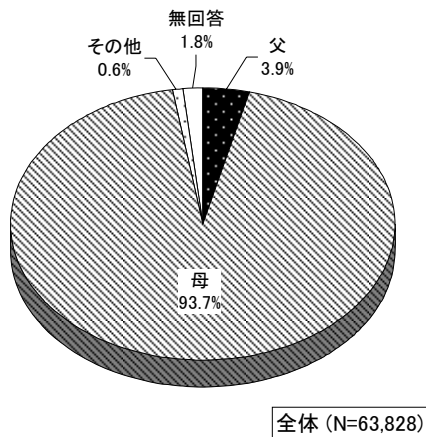
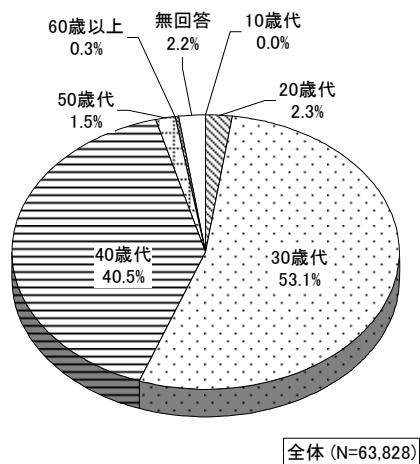


図 記入者の年齢



4. 記入者と配偶者の就労状況

図 記入者の就労状況

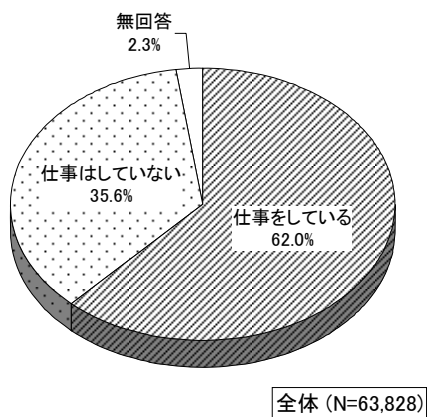
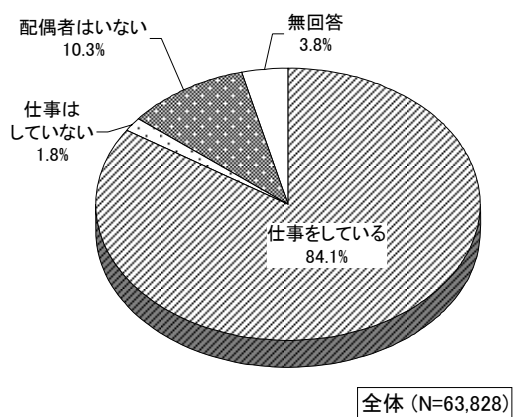


図 配偶者の就労状況



第3章 調査結果

I. 留守家庭子ども会事業について

1. 留守家庭子ども会事業の利用状況

(1) 利用状況

問1 現在、お子様は、留守家庭子ども会を利用されていますか。または、以前利用されていましたか。次から1つお選びください。(○は1つだけ)

「現在、利用している」と「以前、利用していた」とをあわせた、利用経験のある保護者は、33.5%であった。福岡市の留守家庭子ども会事業は、原則として小学1～3年生が対象であるため、1～3年生で見ると、「現在、利用している」と回答した保護者は、24.8%となっている。留守家庭子ども会の平成20年度当初の入会率は27.0%であることから、おおむね妥当な調査結果といえる。なお、年度当初の入会率より下がっているのは、途中退会した児童がいるためと考えられる。

図 利用状況（全体）

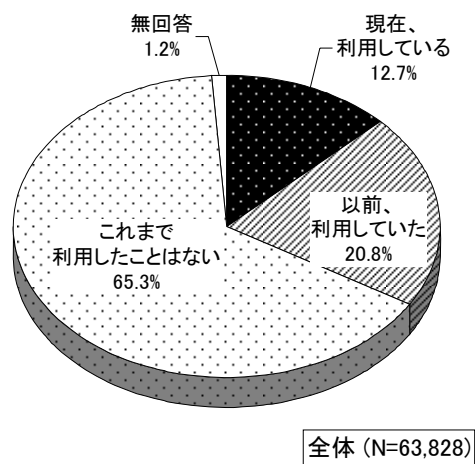
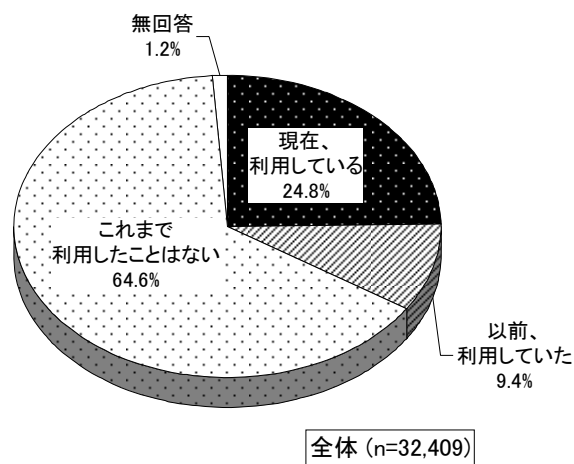


図 利用状況（1～3年生）

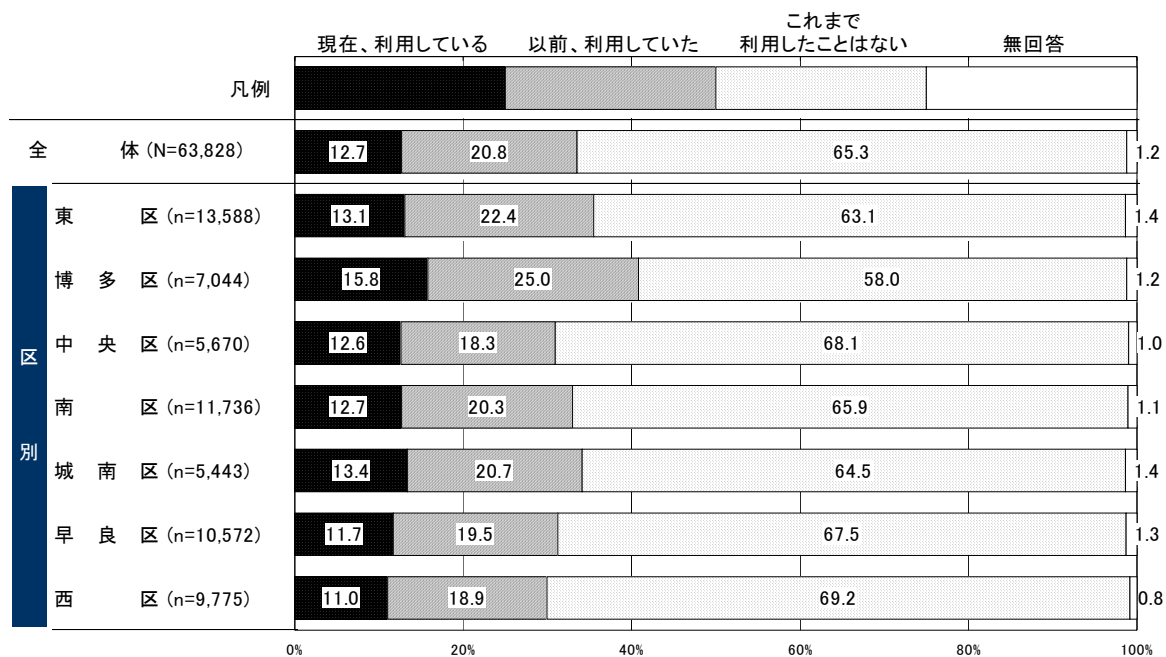


第3章 調査結果

《区別利用状況》

「現在、利用している」と「以前、利用していた」とをあわせた、利用経験のある保護者の比率が、相対的に高い区は、博多区(40.8%)、次いで東区(35.5%)である。相対的に利用比率が低いのは、西区(29.9%)、中央区(30.9%)などとなっており、やや地域による利用状況の違いがみられた。

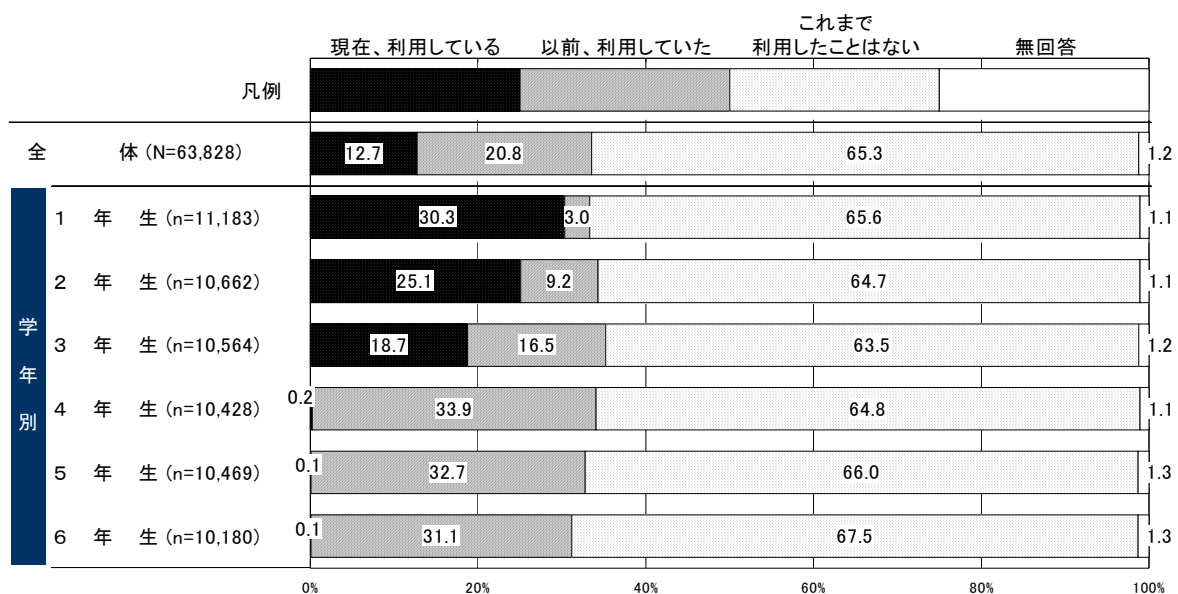
図 利用状況（区別）



《学年別利用状況》

「現在、利用している」と回答した保護者が、1年(30.3%)、2年(25.1%)、3年(18.7%)と学年が上がることもなって減少している。これは、入会率が、学年が上がることもない低下する傾向と一致している。

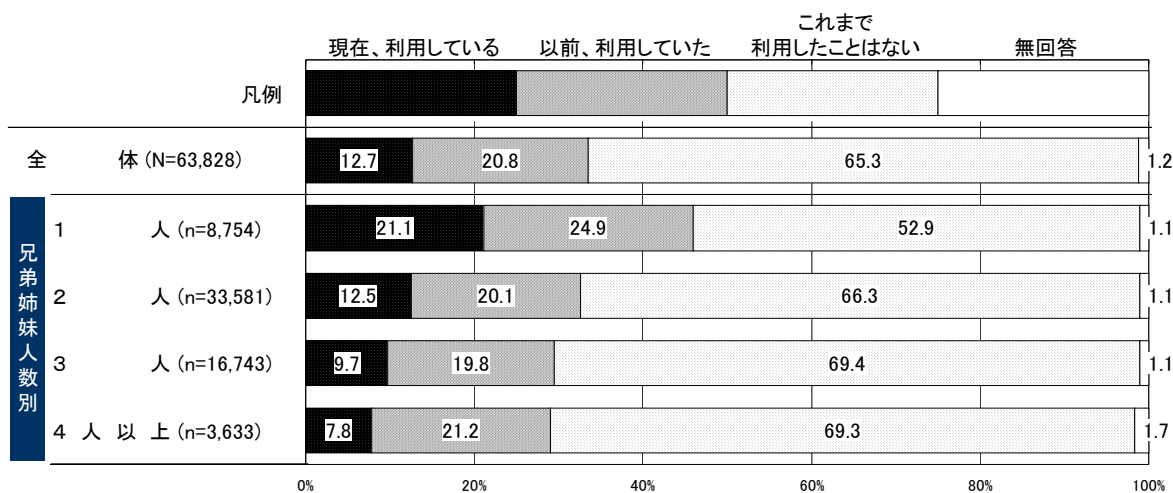
図 利用状況（学年別）



《兄弟姉妹人数別利用状況》

「現在利用している」と「以前、利用していた」とをあわせた、利用経験のある保護者の比率は、4人以上(29.0%)、3人(29.5%)、2人(32.6%)と兄弟・姉妹の人数が少ないほど高くなっており、特に一人っ子では46.0%と顕著に高くなっている。

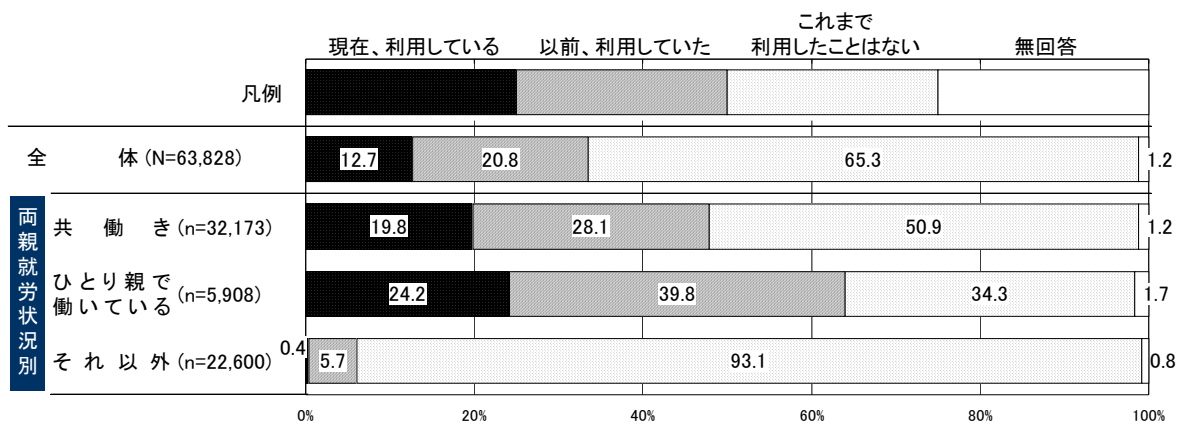
図 利用状況（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別利用状況》

「現在、利用している」と「以前、利用していた」とをあわせた、利用経験のある保護者の比率は、両親ともに家にいない可能性が高い「共働き」家庭、「ひとり親で働いている」家庭で、それぞれ 47.9%、64.0%にとどまっていることから、今後、潜在的なニーズが顕在化することも考えられる。

図 利用状況（両親就労状況別）



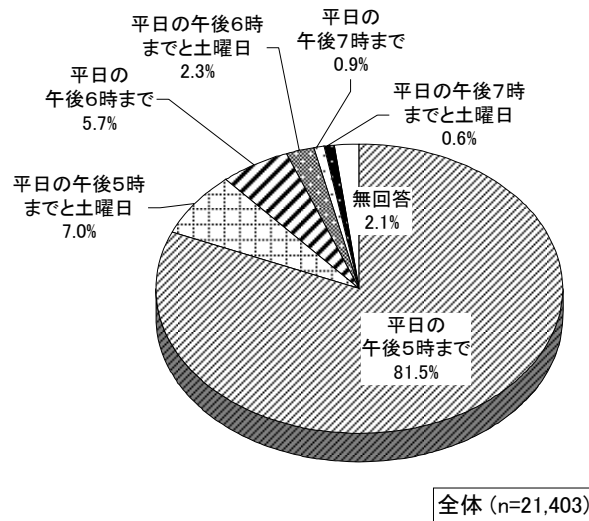
(2) 利用区分

※問1で「1. 現在、利用している」「2. 以前、利用していた」を選ばれた方におたずねします。

問1付問 現在、利用されている（以前、利用されていた方は最後に利用されていた）利用区分はどれですか。次から1つお選びください。（○は1つだけ）

「平日の午後5時まで」が81.5%を占めており、「平日の午後5時までと土曜日」をあわせると、88.5%が午後5時までの基本時間帯の利用区分となっている。

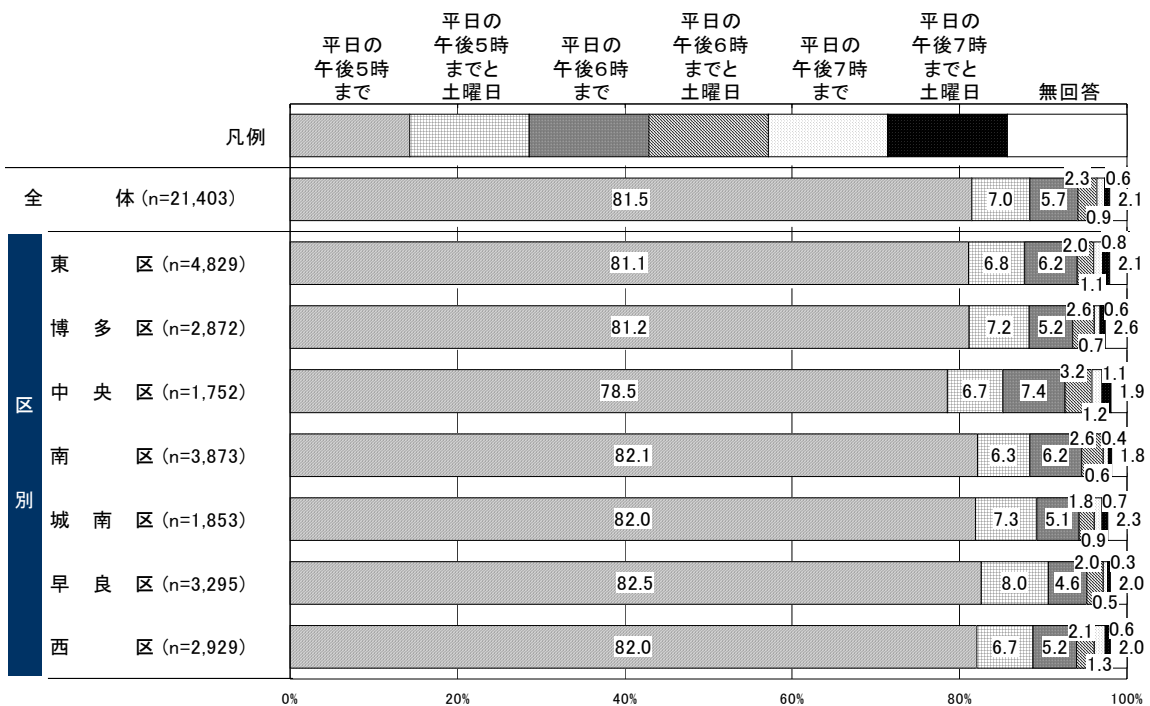
図 利用区分（全体）



《区別利用区分》

「平日の午後5時まで」の利用希望は中央区でやや低いが、特に大きな関連は見られなかった。

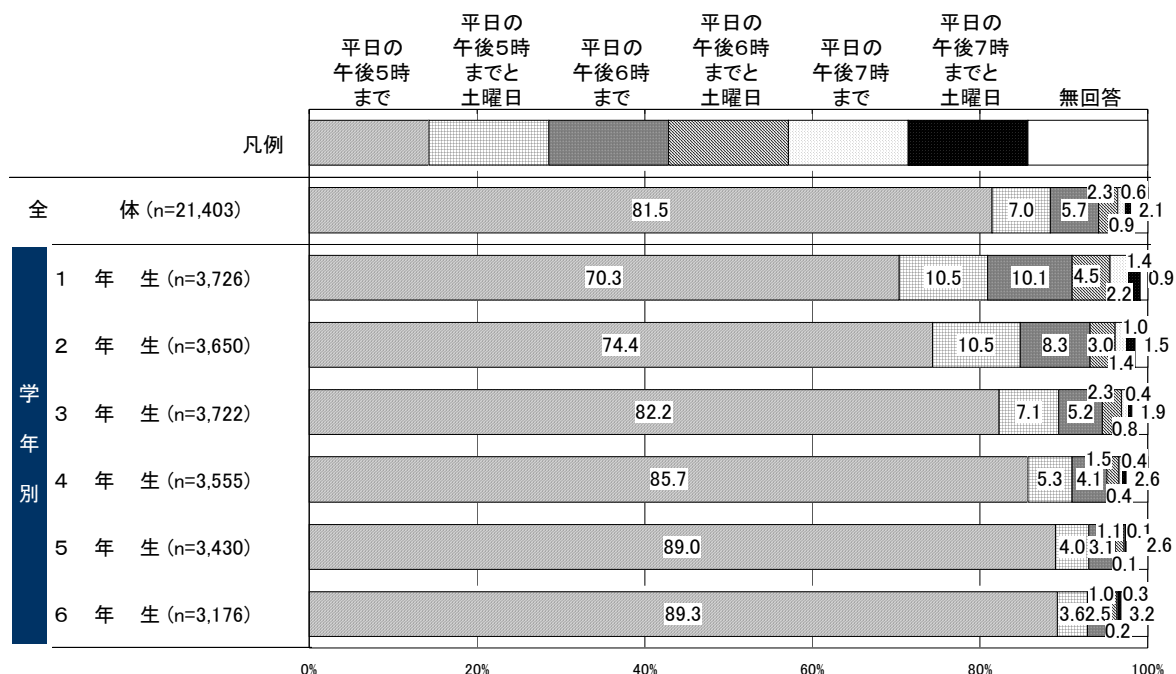
図 利用区分（区別）



《学年別利用区分》

「平日の午後5時まで」の基本時間帯の比率が、学年が上がるとともに高くなっており、低学年ほど延長時間帯、土曜日利用が多くなっている。

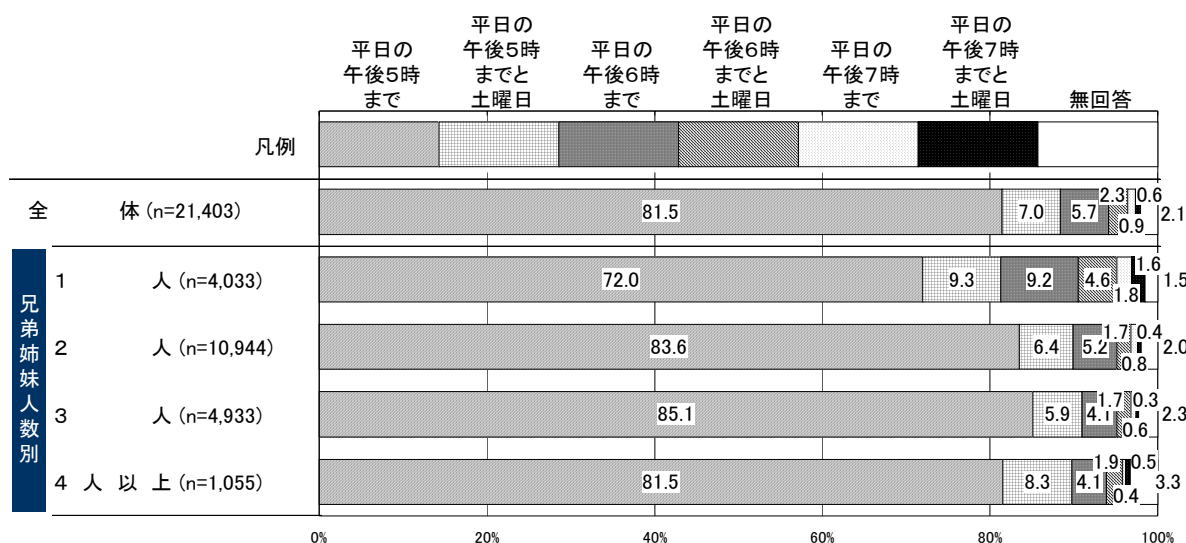
図 利用区分（学年別）



《兄弟姉妹人数別利用区分》

2人、3人よりも、一人っ子の方が、利用時間が長い傾向が見られる。

図 利用区分（兄弟姉妹人数別）

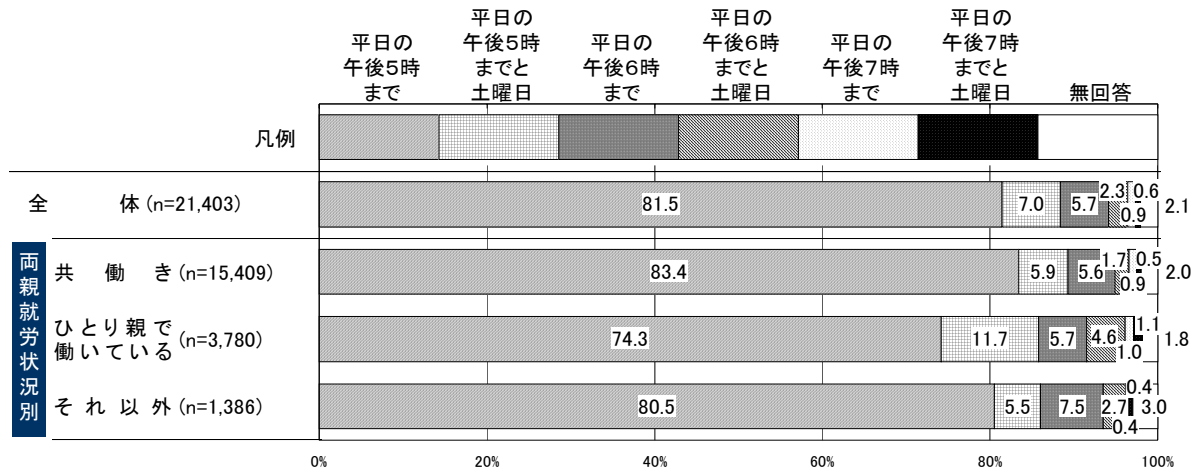


第3章 調査結果

《両親就労状況別利用区分》

「ひとり親で働いている」家庭の方が、延長時間帯、土曜日利用が多くなっている。

図 利用区分（両親就労状況別）



2. 対象学年が拡大された場合の利用意向

(1) 利用意向

問2 留守家庭子ども会の対象学年は、現行では3年生までですが、6年生までに拡大された場合、4年生以上の学年で利用を希望されますか。次から1つお選びください。ただし、現行で以下のとおり入会条件があり、また、利用料をいただいています。(○は1つだけ)

【入会条件】

小学校の授業終了後または学校休業日に、保護者などが、仕事などにより家庭にいないことが常態（1か月に15日以上かつ6か月以上継続）である児童

【利用料】

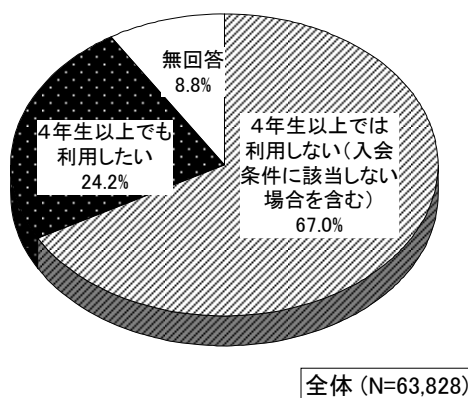
平日午後5時まで	3,000円/月
平日午後5時までと土曜日	5,000円/月
平日午後6時まで	4,000円/月
平日午後6時までと土曜日	6,000円/月
平日午後7時まで	5,000円/月
平日午後7時までと土曜日	7,000円/月

※就学援助を受給されている場合などは、利用料の減免があります。
 ※利用料に加え、留守家庭子ども会ごとに月額2,000円～3,000円程度の会費（おやつ代等）が必要です。

「4年生以上でも利用を希望したい」が24.2%、「4年生以上では利用を希望しない(入会条件に該当しない場合を含む)」が67.0%であった。

4人に1人が「4年生以上でも利用したい」と回答しているが、後述の学年別で見ると、平成20年度当初の3年生の入会率(21.0%)を上回る利用希望があったり、同じく後述の両親の就労状況別で見ると、両親のどちらかが家にいる可能性の高い「それ以外」の家庭の19.8%が「4年生以上でも利用したい」と回答するなど、実利用見込みより、かなり大きな利用希望が含まれていると思われる。

図 利用意向（全体）

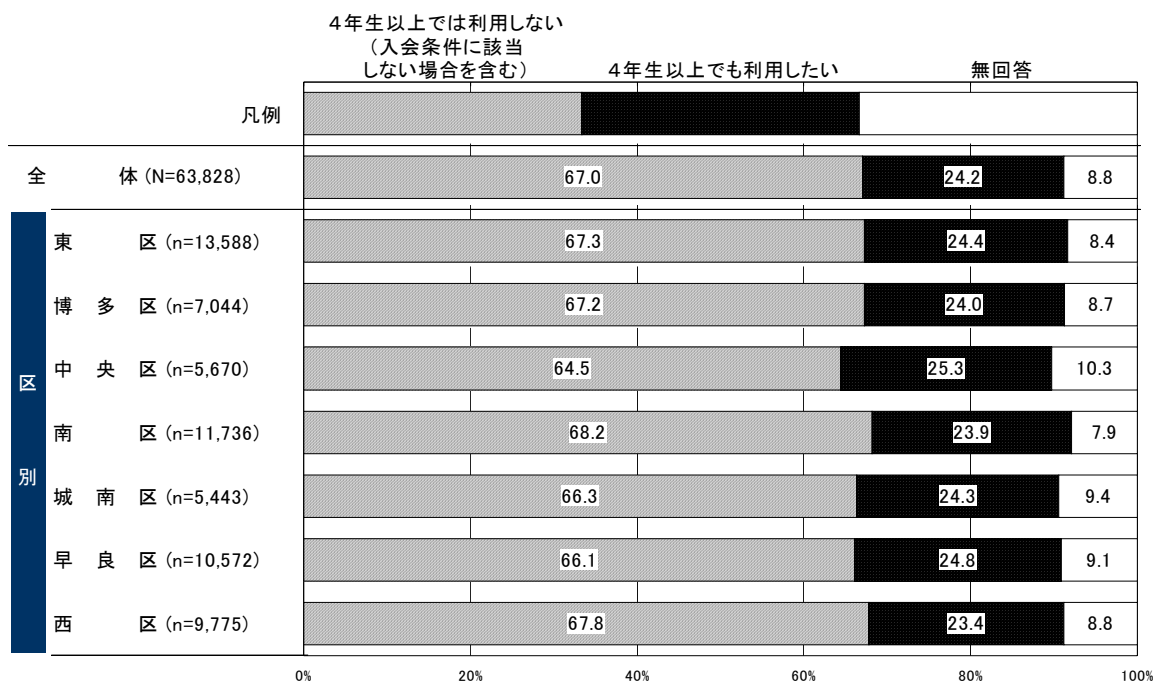


第3章 調査結果

《区別利用意向》

「4年生以上では利用したい」が中央区ではやや高いが、特に大きな関連は見られなかった。

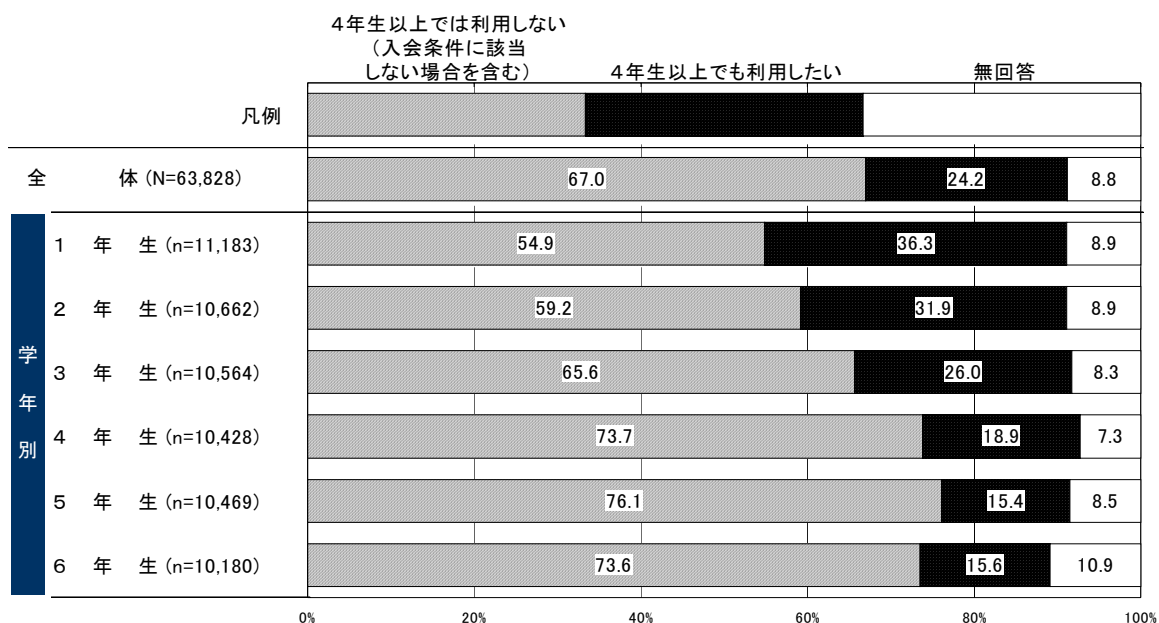
図 利用意向（区別）



《学年別利用意向》

「4年生以上でも利用したい」とした保護者の比率は、1年生が最も高く(36.3%)、学年が上がるにともない低下する傾向がある。特に5・6年生は15%程度で、1年生の半分以下になっている。

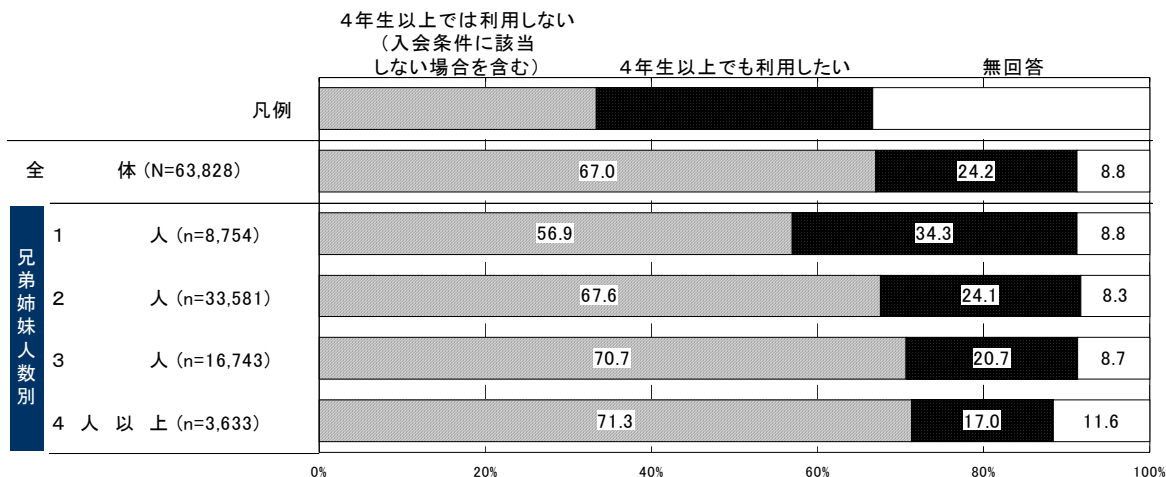
図 利用意向（学年別）



《兄弟姉妹人数別利用意向》

「4年生以上でも利用したい」とした保護者の比率は、一人っ子(34.3%)が最も高く、兄弟・姉妹の人数が増えるごとに低くなっていき、4人以上では17.0%と、一人っ子の半分以下になっている。

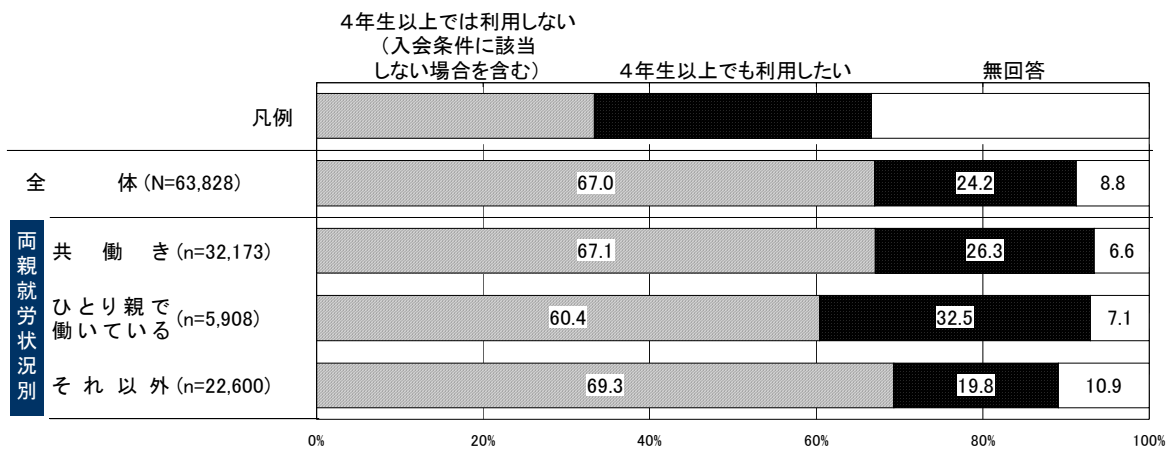
図 利用意向（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別利用意向》

「4年生以上でも利用したい」とした保護者の比率は、「ひとり親で働いている」家庭(32.5%)、「共働き」家庭(26.3%)で高くなっているが、両親のどちらかが家にいる可能性が高い「それ以外」の家庭でも5人に1人が希望している。

図 利用意向（両親就労状況別）



(2) 利用希望学年

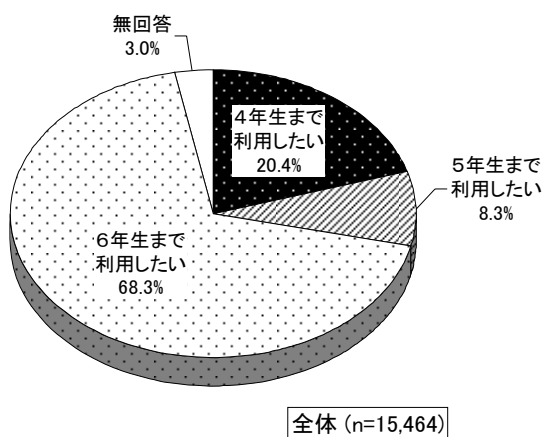
※問2で「2. 4年生以上でも利用したい」を選ばれた方におたずねします。

問2付問1 何年生までの利用を希望されますか。次から1つお選びください。(○は1つだけ)

「4年生以上でも利用したい」とした保護者のうち、「4年生まで利用したい」が20.4%、「5年生まで利用したい」が8.3%、「6年生まで利用したい」が68.3%となっている。

自由意見にあるとおり、「利用するかどうかわからないが、制度としては6年生まで利用できるべき」といった、実利用見込みを上まわる利用希望が現れていると考えられる。

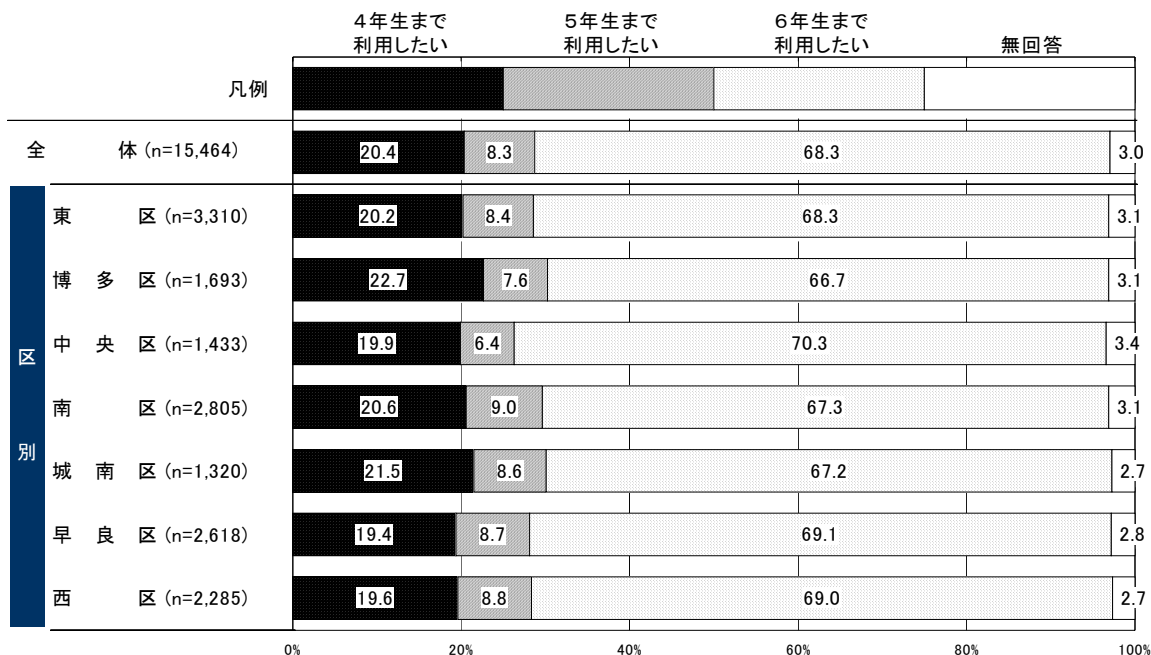
図 利用希望学年（全体）



《区別利用希望学年》

「6年生まで利用したい」が中央区でやや高いが、特に大きな関連は見られなかった。

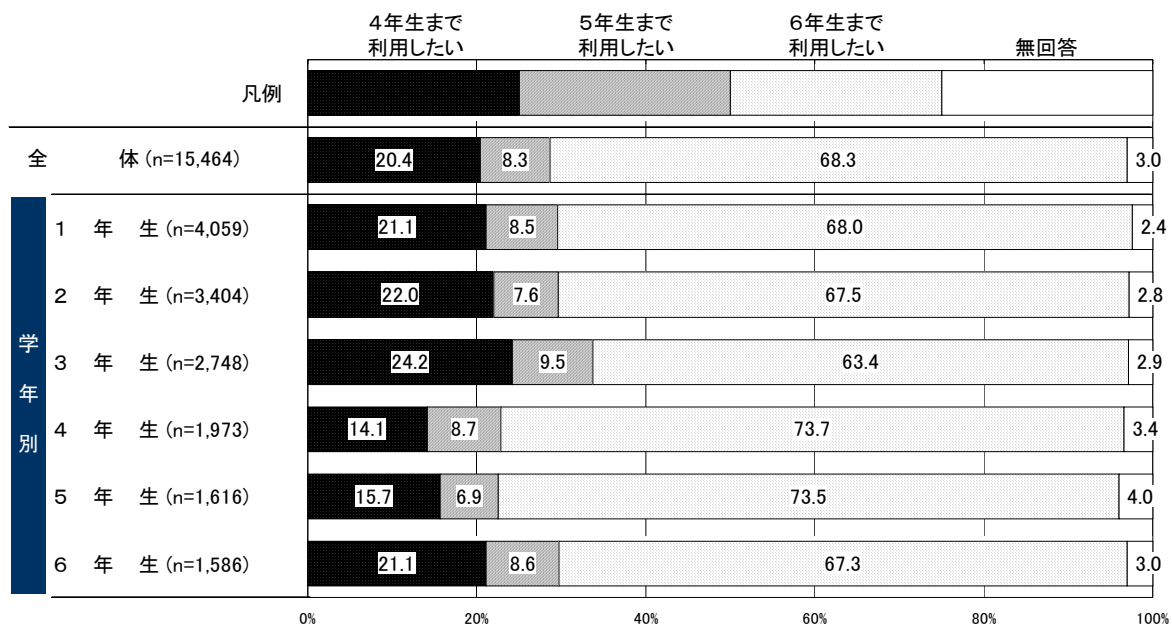
図 利用希望学年（区別）



《学年別利用希望学年》

1～3年生において、「4年生まで利用したい」とする保護者の比率が比較的高くなっている。

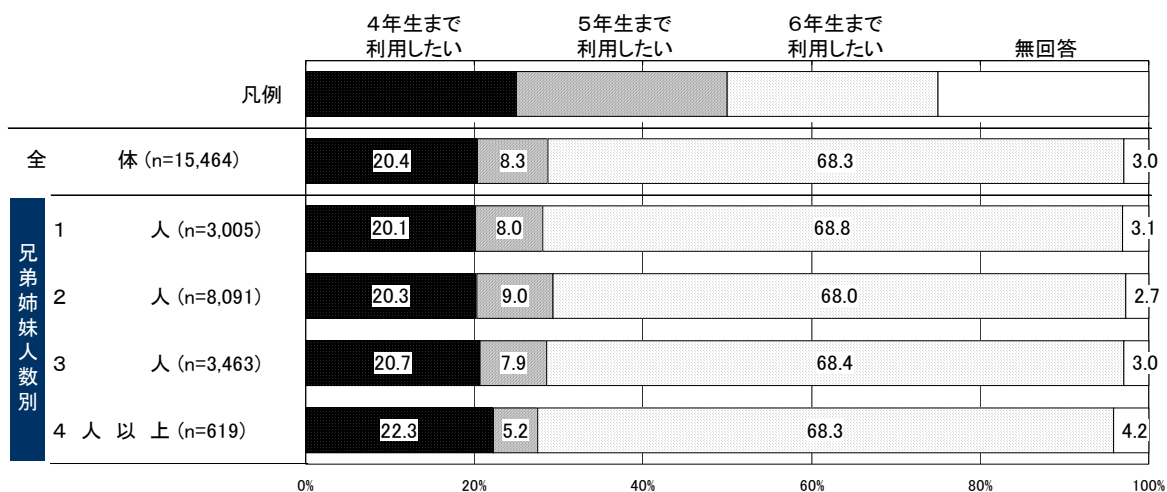
図 利用希望学年（学年別）



《兄弟姉妹人数別利用希望学年》

特に大きな関連は見られなかった。

図 利用希望学年（兄弟姉妹人数別）

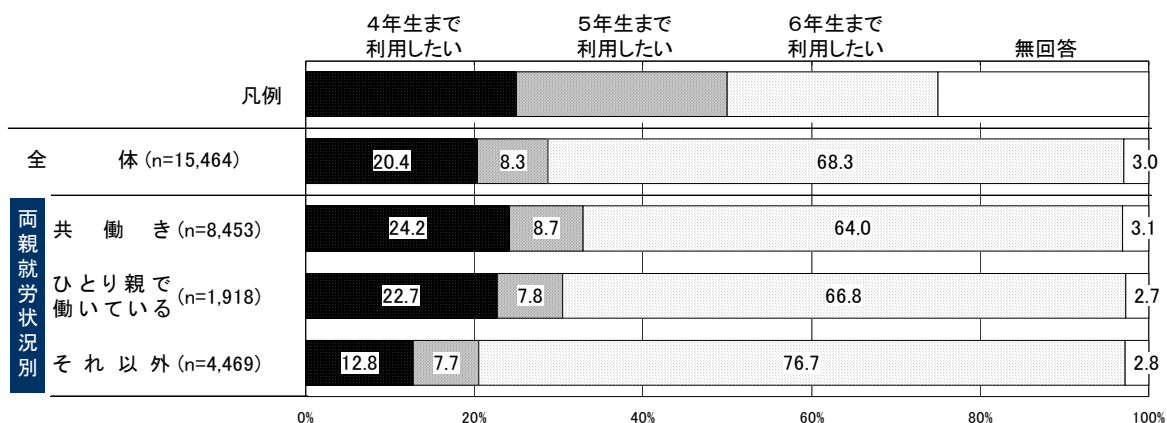


第3章 調査結果

《両親就労状況別利用希望学年》

両親のどちらかが家にいる可能性が高い「それ以外」の家庭で、相対的に「4年生まで利用したい」の比率が低く、「6年生まで利用したい」の比率が高くなっている。

図 利用希望学年（両親就労状況別）



(3) 希望利用区分

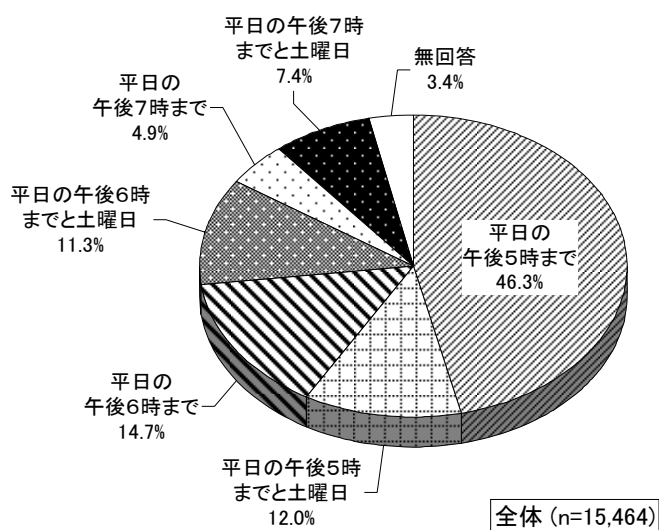
※問2で「2. 4年生以上でも利用したい」を選ばれた方におたずねします。

問2付問2 希望される利用区分はどれですか。次から1つお選びください。ただし、午後5時を超える利用及び土曜日の利用については、保護者のお迎えが必要です

(○は1つだけ)

「4年生以上でも利用したい」とした保護者のうち、「平日の午後5時まで」の基本時間帯のみを選んだ保護者が46.3%であった。現状で「平日の午後5時まで」利用している保護者(81.5%)を大きく下回っており、ここでも、実利用見込みを上回る延長時間帯、土曜日の利用希望が現れていると思われる。

図 希望利用区分 (全体)

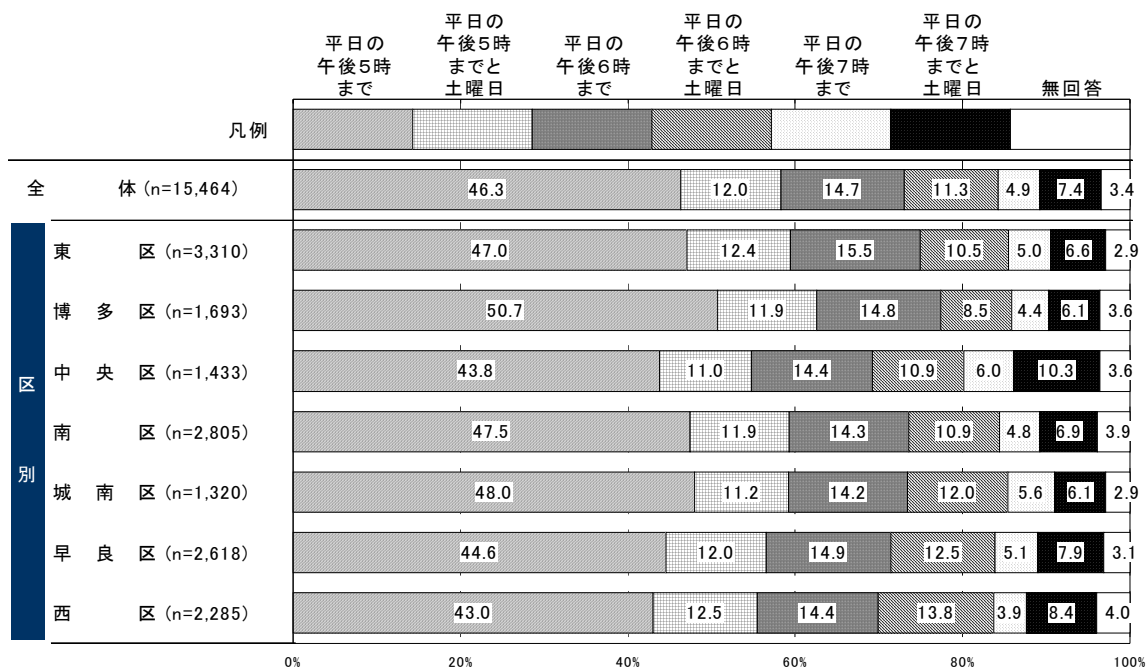


第3章 調査結果

《区別希望利用区分》

特に大きな関連は見られなかった。

図 希望利用区分（区別）

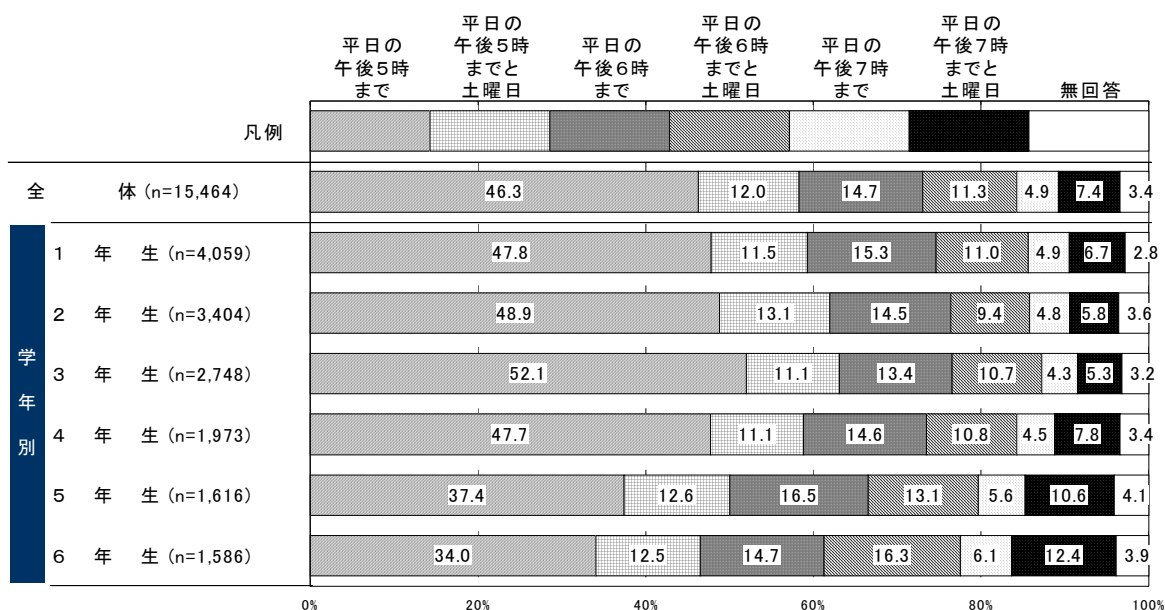


《学年別希望利用区分》

高学年においては、低学年よりも、土曜日の利用希望が高く、その分、基本時間帯(平日の午後5時まで)の利用希望が低くなっている。

自由意見にあるとおり、高学年は平日の帰宅が遅いため、相対的に土曜日の希望が多くなっているものと考えられる。

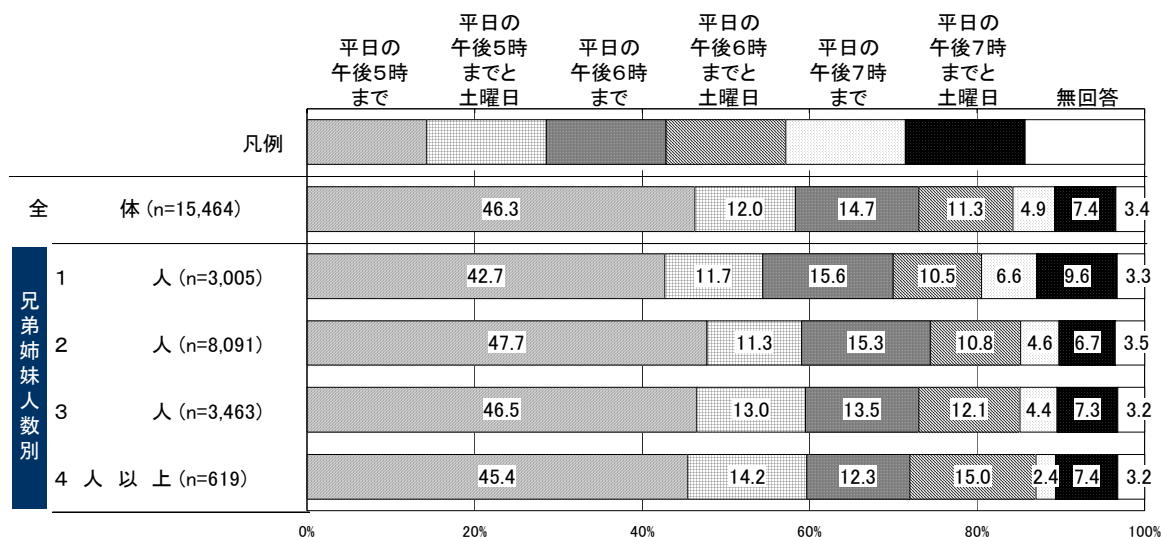
図 希望利用区分（学年別）



《兄弟姉妹人数別希望利用区分》

一人っ子において、兄弟のいる場合に比べ、「平日の午後7時まで」「平日の午後7時までと土曜日」の比率が高く、「平日の午後5時まで」の比率が低かった。

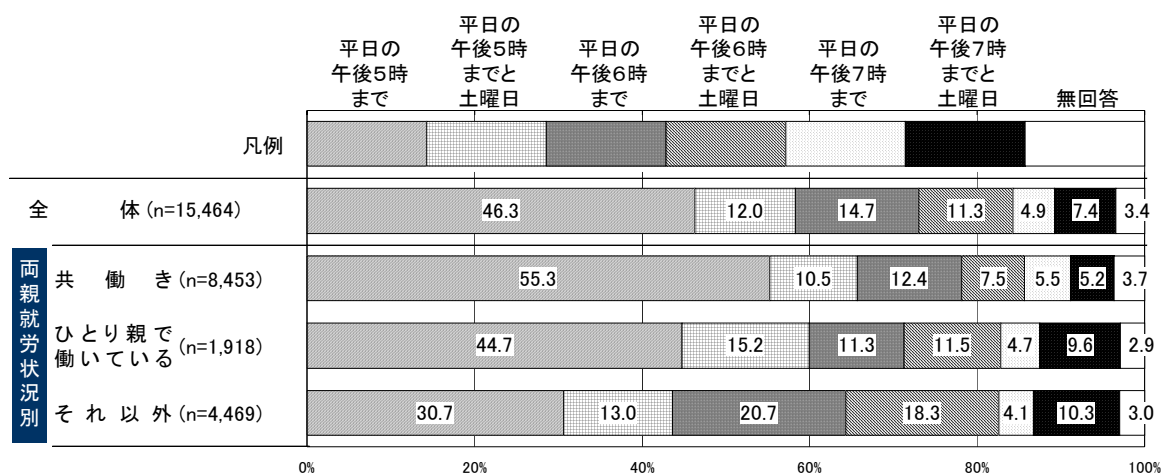
図 希望利用区分（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別希望利用区分》

両親の就労状況別にみると、「共働き」家庭の55.3%が「平日の午後5時まで」と答えているのに対して、「ひとり親で働いている」家庭では「平日の午後5時まで」は44.7%であり、「共働き」家庭以上に土曜日の利用希望が高くなっている。

図 希望利用区分（両親就労状況別）



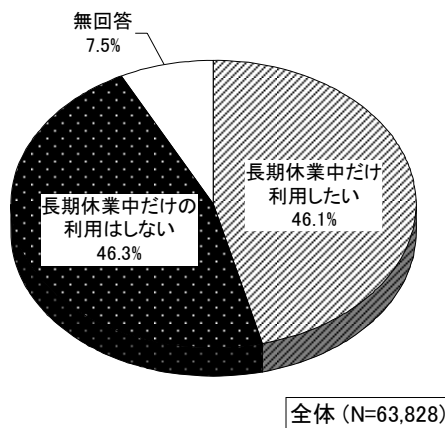
3. 長期休業中だけの利用意向

問3 現行では、学期中には利用せず、夏休みなどの長期休業中だけ利用できる区分はありませんが、もしこの利用区分ができた場合、利用したいですか。次から1つお選びください。
(○は1つだけ)

「長期休業中だけ利用したい」が46.1%、「長期休業中だけの利用はしない」が46.3%とほぼ半々になっている。

概ね利用要件に該当すると思われる「現在、利用している」と「以前、利用していた」とをあわせた、利用経験のある保護者の比率が、33.5%にとどまることから、ここでも実利用見込みを上まわる利用希望が含まれていると考えられる。

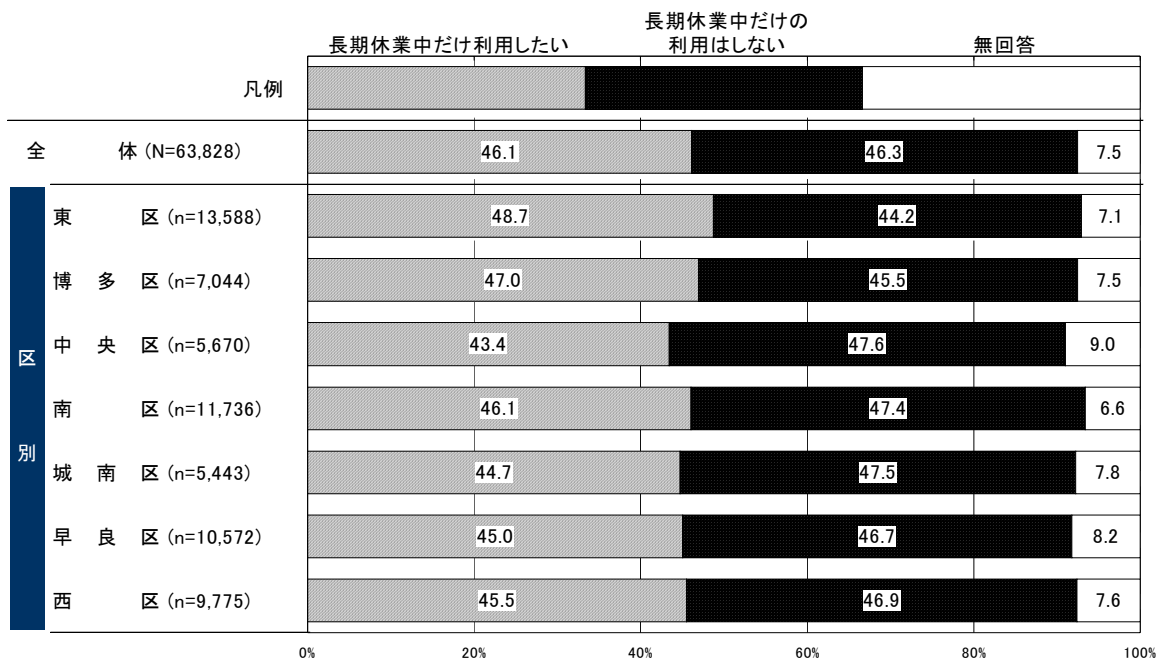
図 長期休業中だけの利用意向（全体）



《区別長期休業中だけの利用意向》

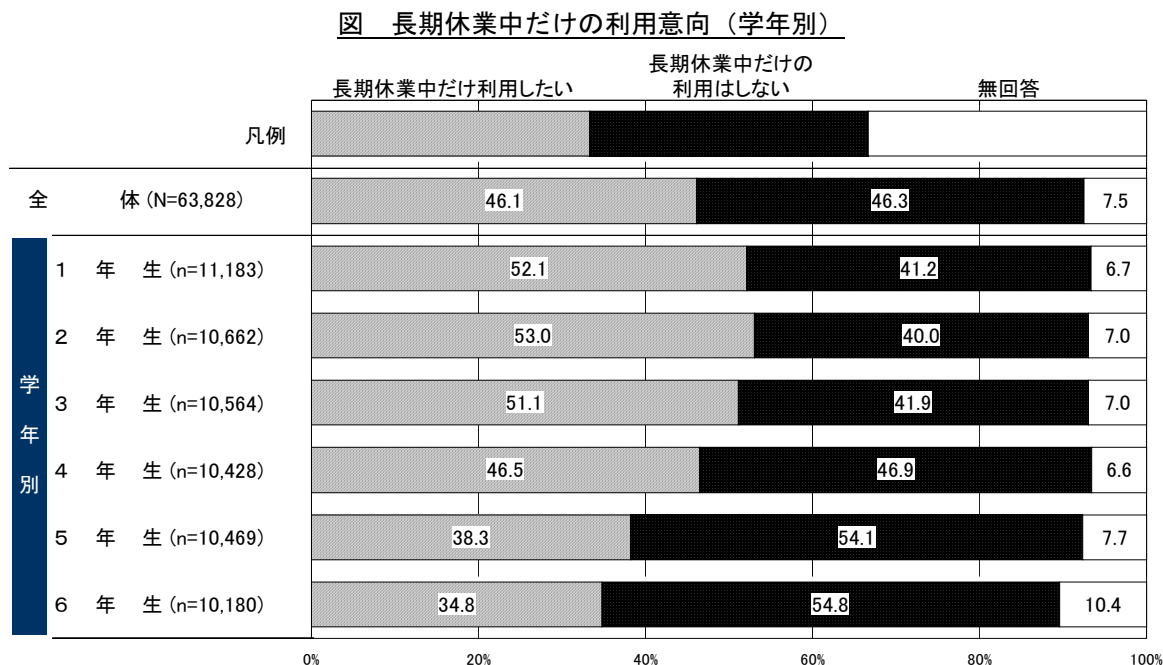
特に大きな関連は見られなかった。

図 長期休業中だけの利用意向（区別）



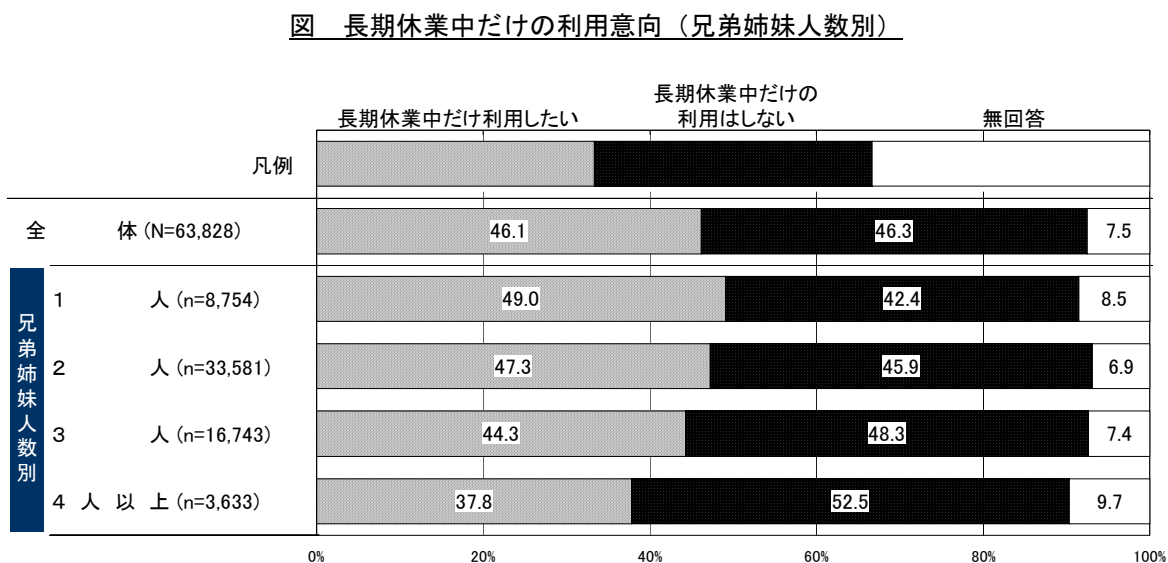
《学年別長期休業中だけの利用意向》

対象学年が拡大した場合の利用意向同様、「長期休業中だけ利用したい」とした保護者の比率は、低学年ほど高くなっており、4年生までは全体を上回る希望があがっている。



《兄弟姉妹人数別長期休業中だけの利用意向》

対象学年が拡大した場合の利用意向同様、「長期休業中だけ利用したい」保護者の比率は、一人っ子(49.0%)が最も高く、兄弟・姉妹の数が多くなることもなって低くなり、4人以上では37.8%となる。

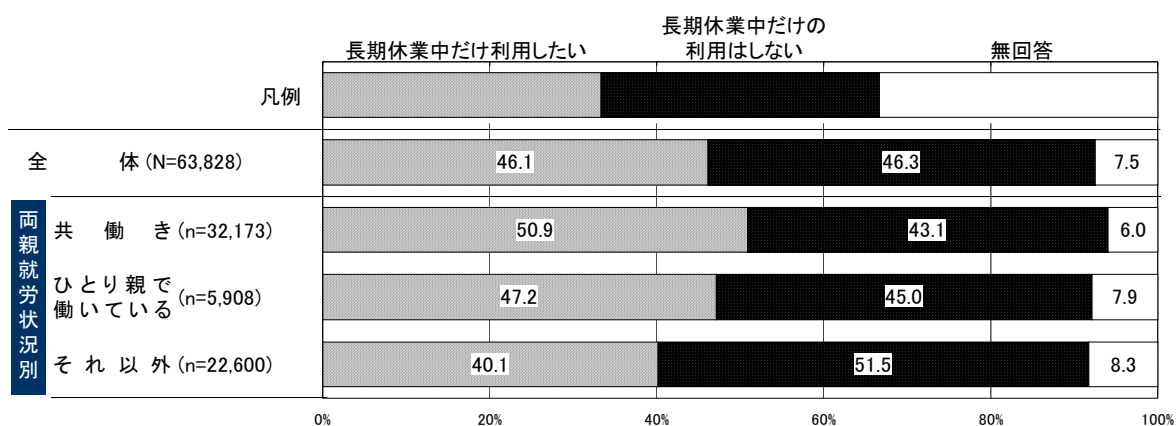


《両親就労状況別長期休業中だけの利用意向》

「長期休業中だけ利用したい」保護者の比率は、「共働き」家庭が 50.9%、「ひとり親で働いている」家庭が 47.2%と高くなっている。

ただ、両親のいずれかが家にいる可能性の高い「それ以外」の家庭においても、40.1%と高くなっており、ここでも実利用見込みを上まわる利用希望が含まれていると考えられる。

図 長期休業中だけの利用意向（両親就労状況別）



II. 放課後の遊び場づくり事業について

1. 放課後の遊び場づくり事業の認知状況

【放課後の遊び場づくり事業について】

「遊び」は、子どもの発達に重要な役割を果たすと言われていたにもかかわらず、遊ばない・遊べない子どもが増えていることから、福岡市では、全ての児童を対象に、放課後の学校施設を活用して安全な遊び場を確保し、子どもたちの健全育成を図る「放課後の遊び場づくり事業」を行っています。

10小学校でモデル的に週2回程度実施しており、子どもたちは、ランドセルを置いたまま、プレイリーダーによる遊びの指導や保護者のボランティアによる見守りのもと、自由に遊んでいます。

参加費用は無料ですが、保険料などは参加者の負担です。

現在、事業の充実を図るため、検討を行っております。

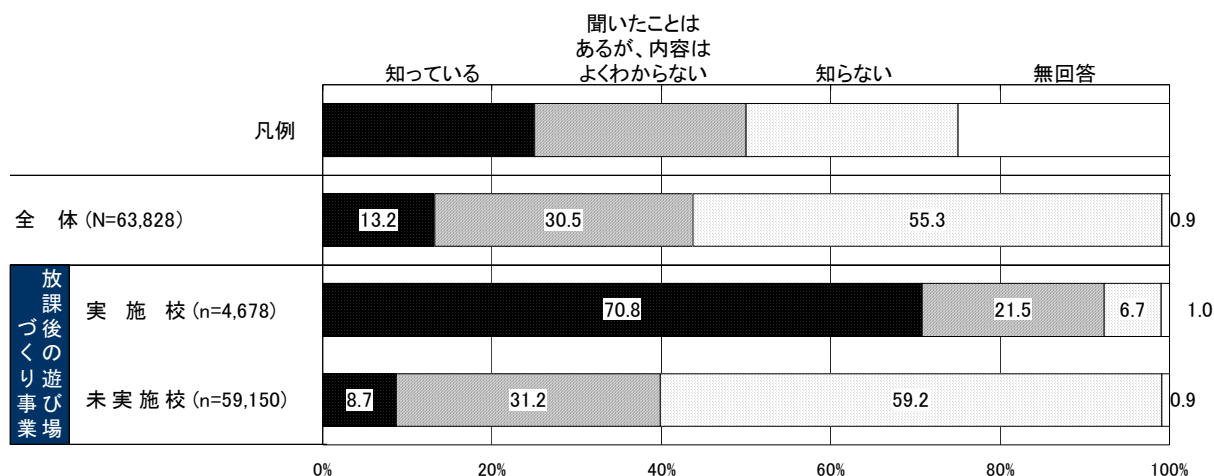
(1) 認知状況

問4 放課後の遊び場づくり事業をご存知ですか。次から1つお選びください。(○は1つだけ)

「知っている」が13.2%、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が30.5%で、おおむね4割の保護者が事業を認知していたが、内容を理解している人は1割程度であった。

実施校、未実施校の別で見ると、実施校においては、「知っている」が70.8%であったのに対し、未実施校では1割以下となっている。

図 認知状況（事業実施別）

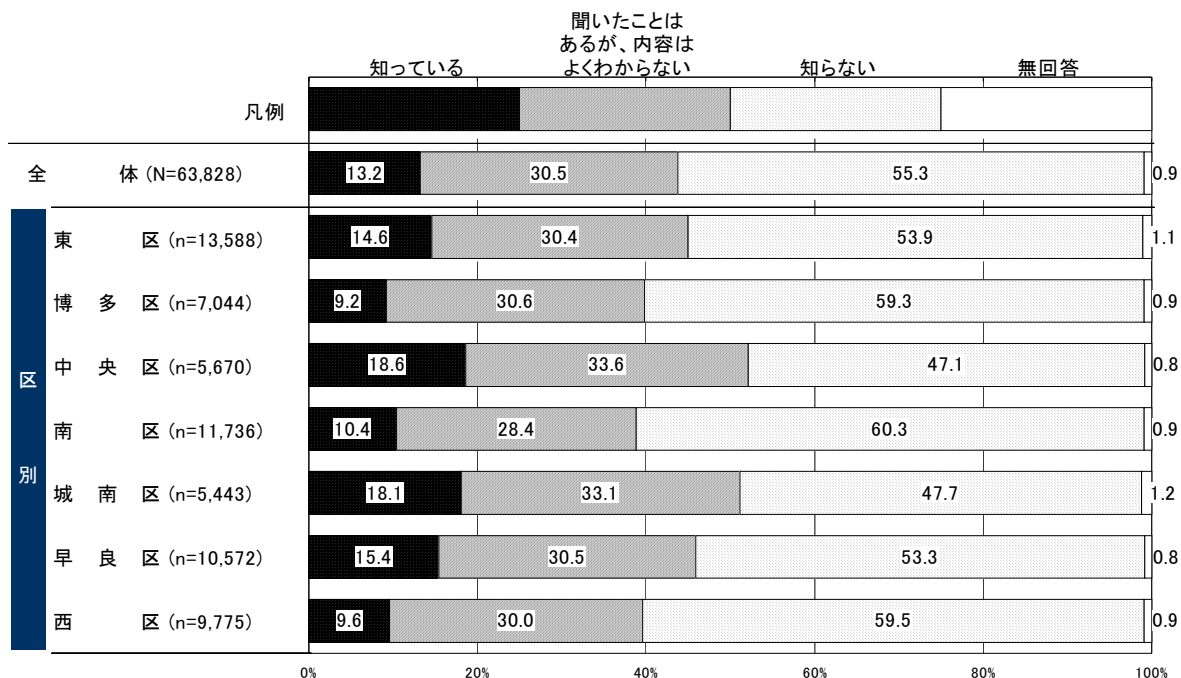


第3章 調査結果

《区別認知状況》

「知っている」とした保護者の比率が相対的に高いのは、中央区(18.6%)、城南区(18.1%)となっており、相対的に低いのは、博多区(9.2%)、西区(9.6%)となっている。

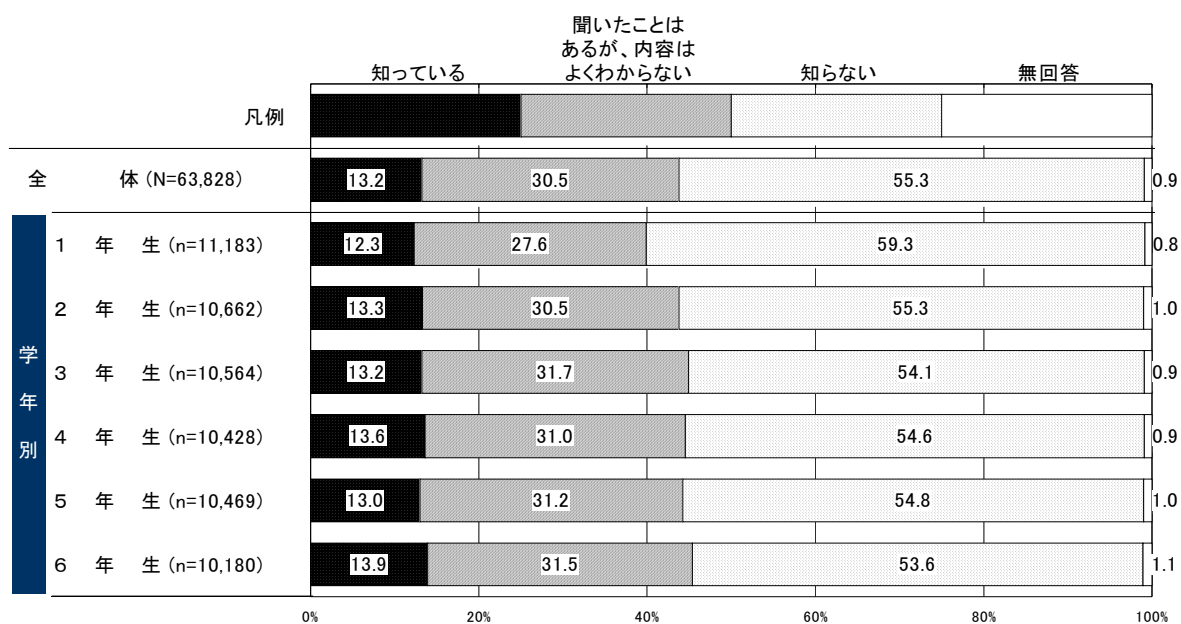
図 認知状況 (区別)



《学年別認知状況》

1年生で「知らない」の比率が若干低いが、特に大きな関連は見られなかった。

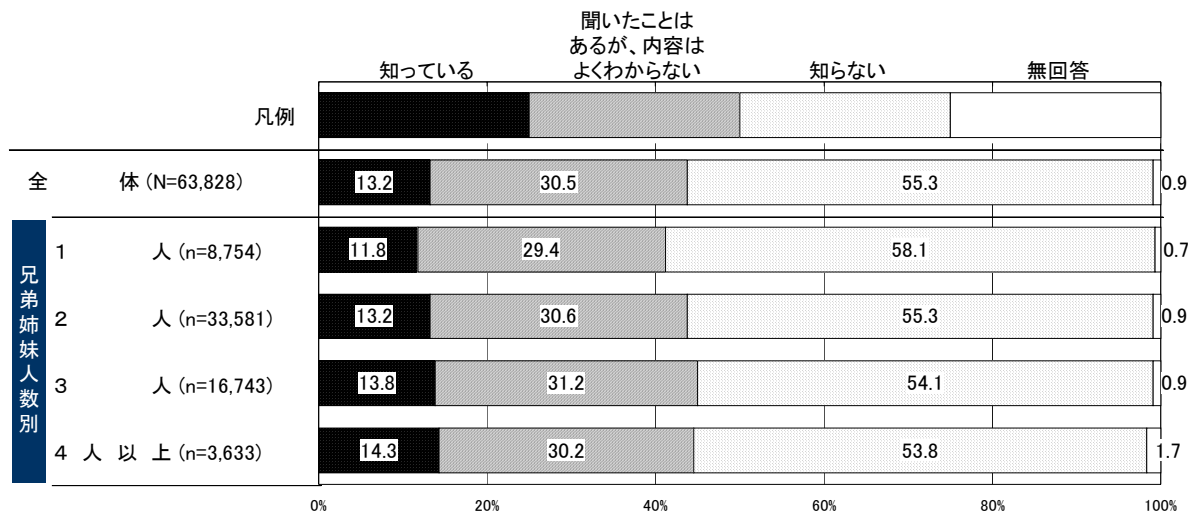
図 認知状況 (学年別)



《兄弟姉妹人数別認知状況》

兄弟・姉妹の人数が多いほど、認知度が上がる傾向がある。

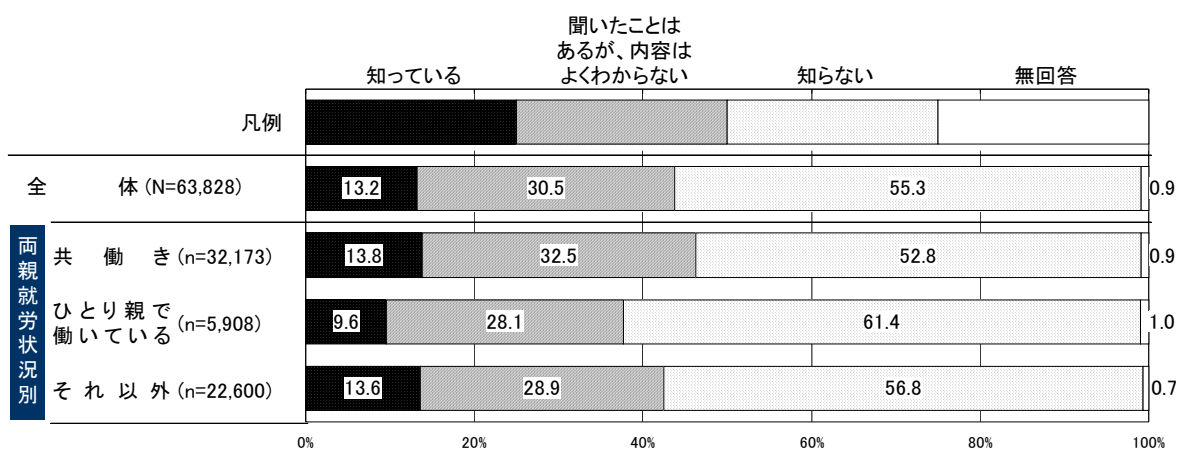
図 認知状況（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別認知状況》

「ひとり親で働いている」家庭において、「知っている」と回答した保護者の比率が低かった。

図 認知状況（両親就労状況別）



2. 放課後の遊び場づくり事業への参加意向

(1) 参加意向

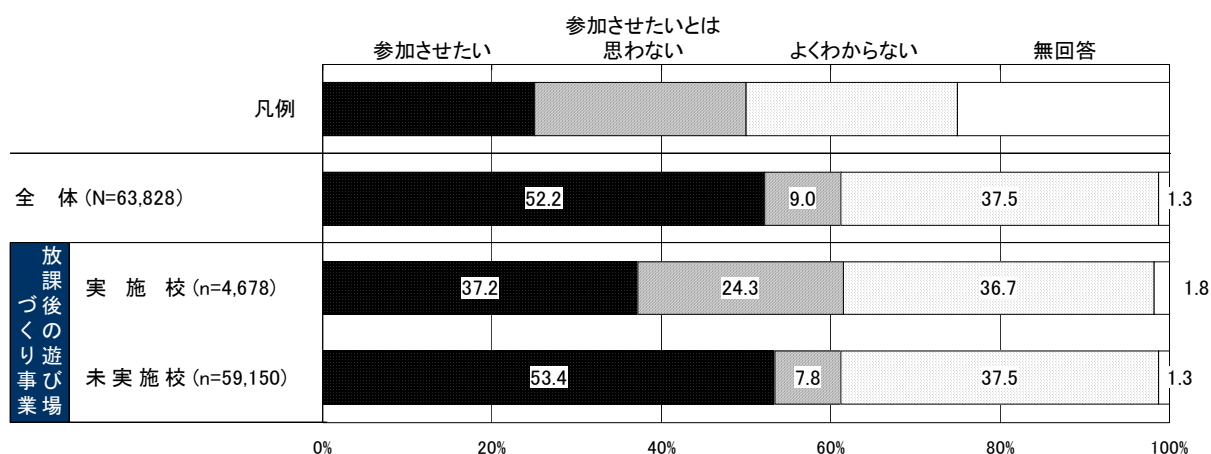
問5 放課後の遊び場づくり事業が、お子様が通われている小学校で実施された場合、参加させたいと思いますか。次から1つお選びください。(○は1つだけ)

全体で見ると、過半数(52.2%)の保護者が「参加させたい」と回答している。

実施校・未実施校の別で見ると、実施校の方が「参加させたい」が少なく、「参加させたいとは思わない」が多くなり、参加意向の低下が見られる。

事業内容をよく知っている実施校の方が参加意向が低いのは、実際の実施状況を見る中で、課題を感じている保護者が多いからではないかと思われる。

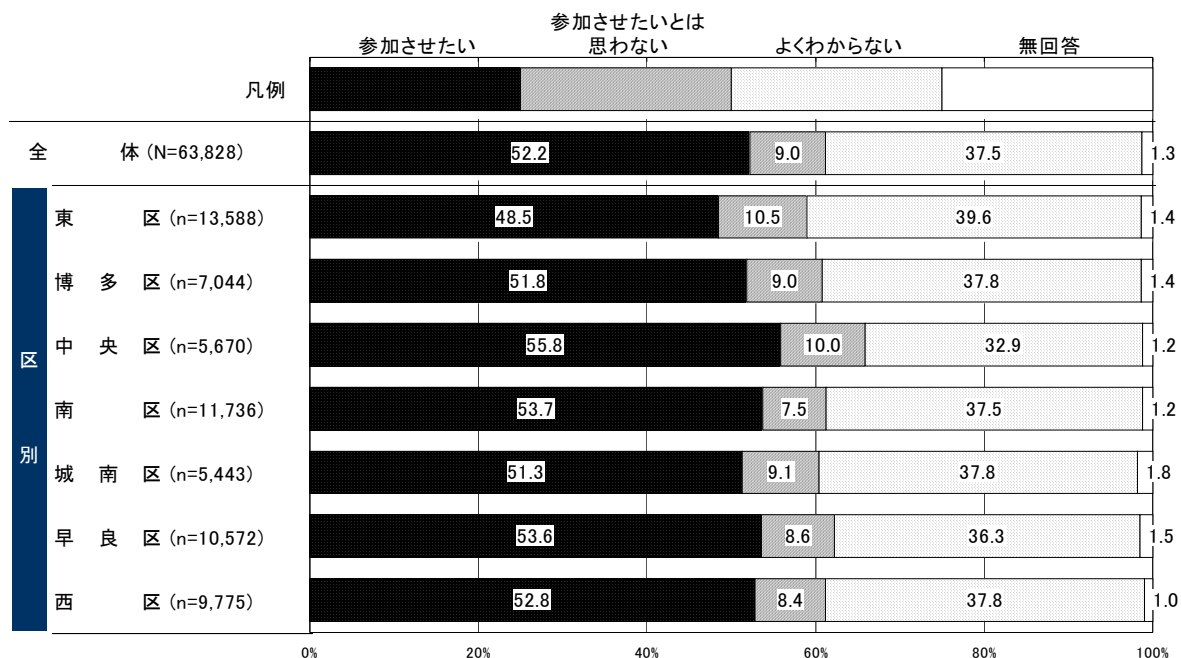
図 参加意向（事業実施別）



《区別参加意向》

中央区で、やや参加意向が高いが、特に大きな関連は見られなかった。

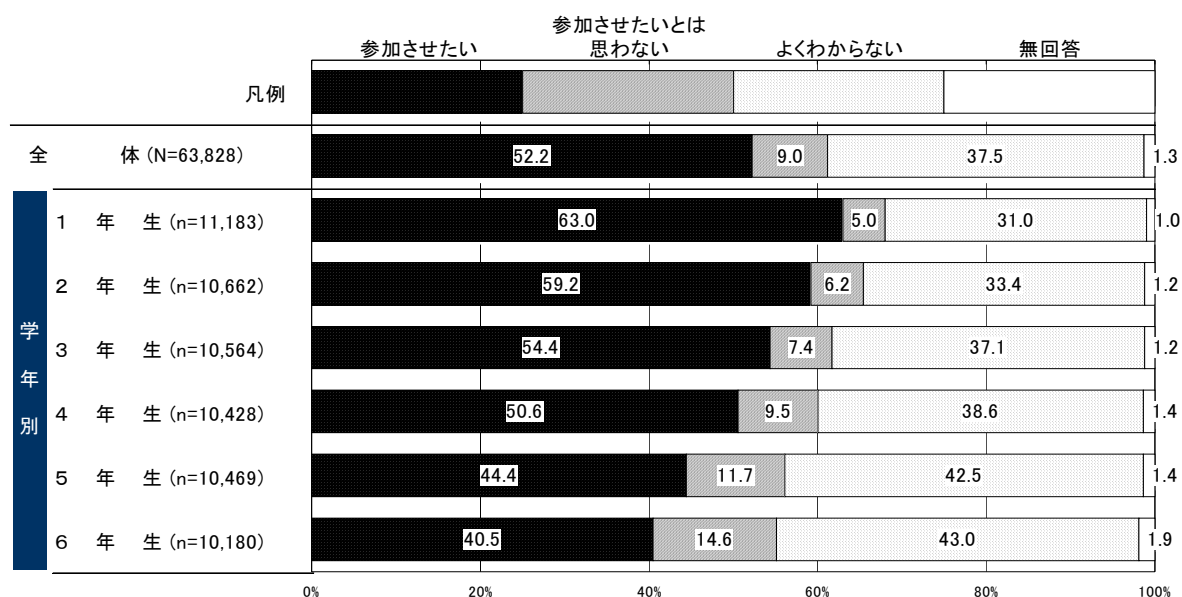
図 参加意向（区別）



《学年別参加意向》

「参加させたい」と回答した保護者は、1年生で最も高く(63.0%)、学年が上がると減少していき、6年生の保護者では40.5%と20ポイント以上低下している。反対に「参加させたくない」は、1年生の保護者では5.0%にすぎないが、学年が上がると増加していき、6年生の保護者では、14.6%で約3倍になっている。

図 参加意向（学年別）

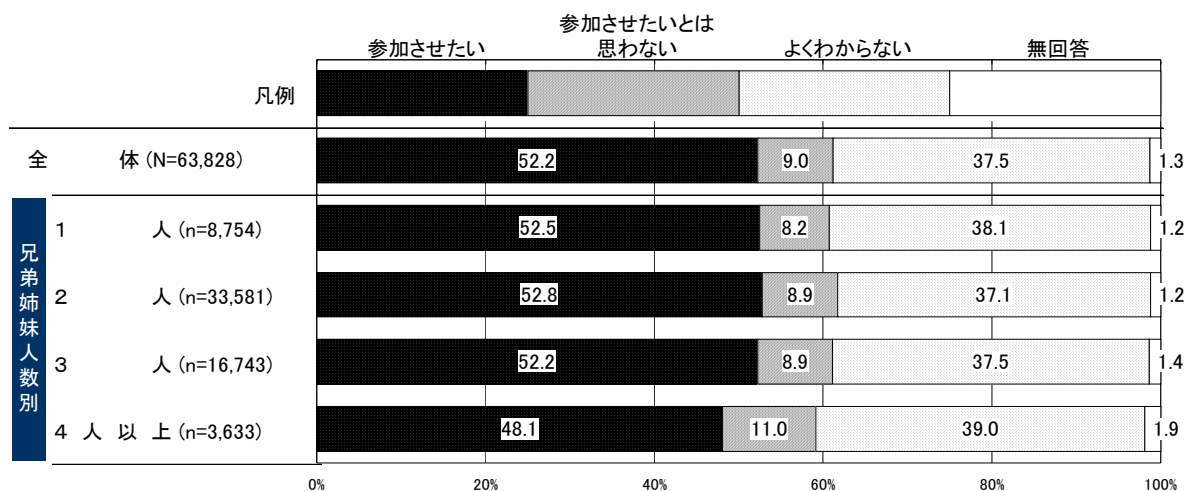


第3章 調査結果

《兄弟姉妹人数別参加意向》

3人以下に比べ、4人以上の保護者において、「参加させたい」の比率が低く、逆に「参加させたいとは思わない」の比率が高かった。

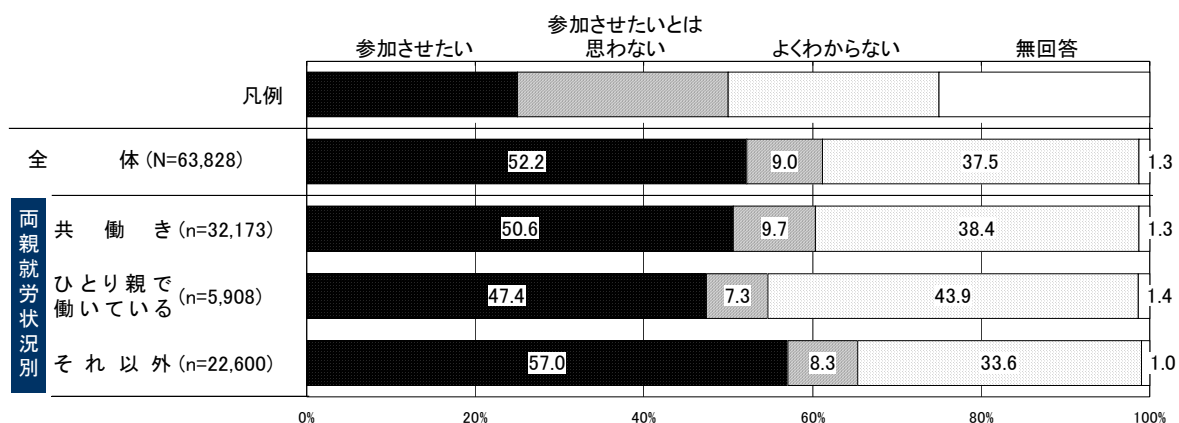
図 参加意向（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別参加意向》

「参加させたい」と回答した保護者の比率が、「それ以外」の家庭(57.0%)で最も高く、最も低い「ひとり親で働いている」家庭(47.4%)を、10ポイント近く上回っている。

図 参加意向（両親就労状況別）



(2) 参加させたくない理由

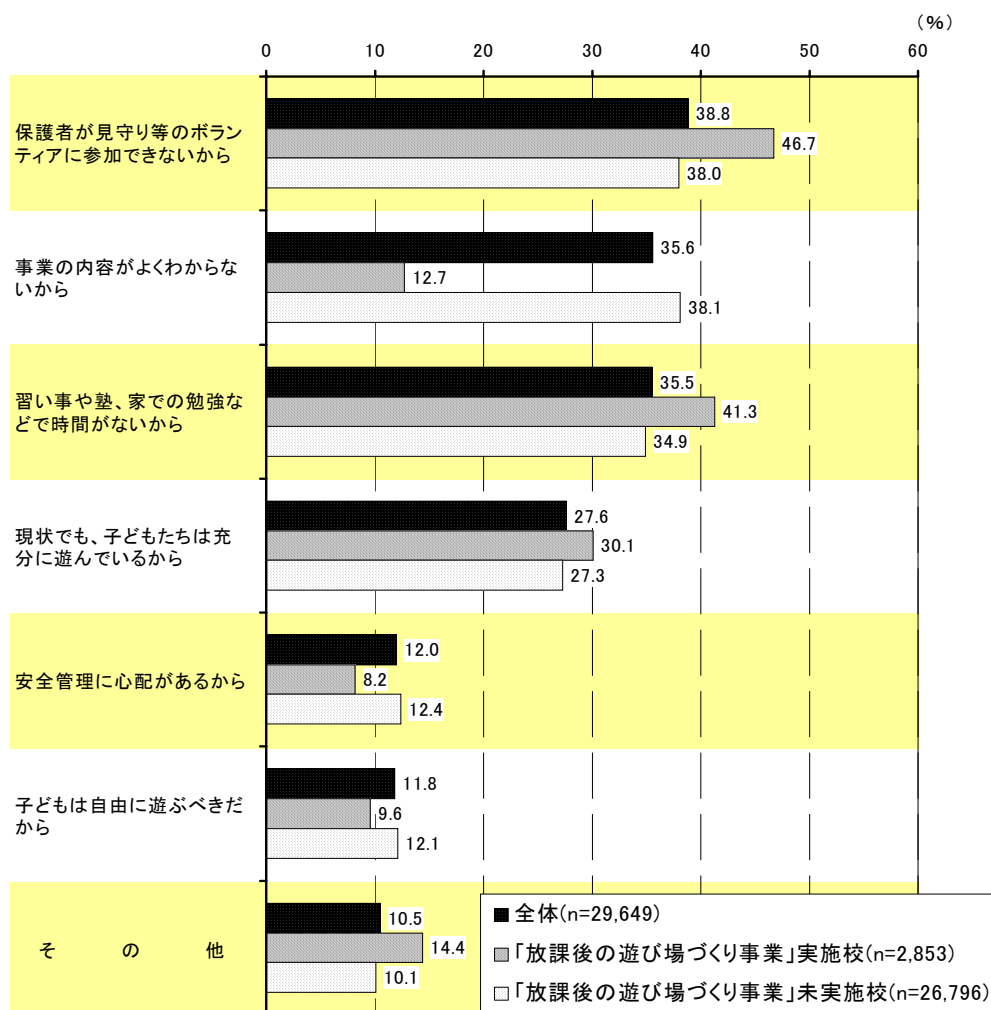
※問5で「2. 参加させたいとは思わない」「3. よくわからない」を選ばれた方におたずねします。

問5付問 それはなぜですか。次から当てはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

全体では、「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから」(38.8%)、「事業の内容がよくわからないから」(35.6%)、「習い事や塾、家での勉強などで時間がないから」(35.5%)の順で高くなっている。

実施校・未実施校の別で見ると、実施校では、「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから」(46.7%)が顕著に高く、次いで、「習い事や塾、家での勉強などで時間がないから」(41.3%)、「現状でも、子どもたちは十分に遊んでいるから」(30.1%)の順となっており、未実施校では、「事業の内容がよくわからないから」(38.1%)、「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから」(38.0%)「習い事や塾、家での勉強などで時間がないから」(34.9%)の順となっていた。

図 参加させたくない理由（事業実施別）

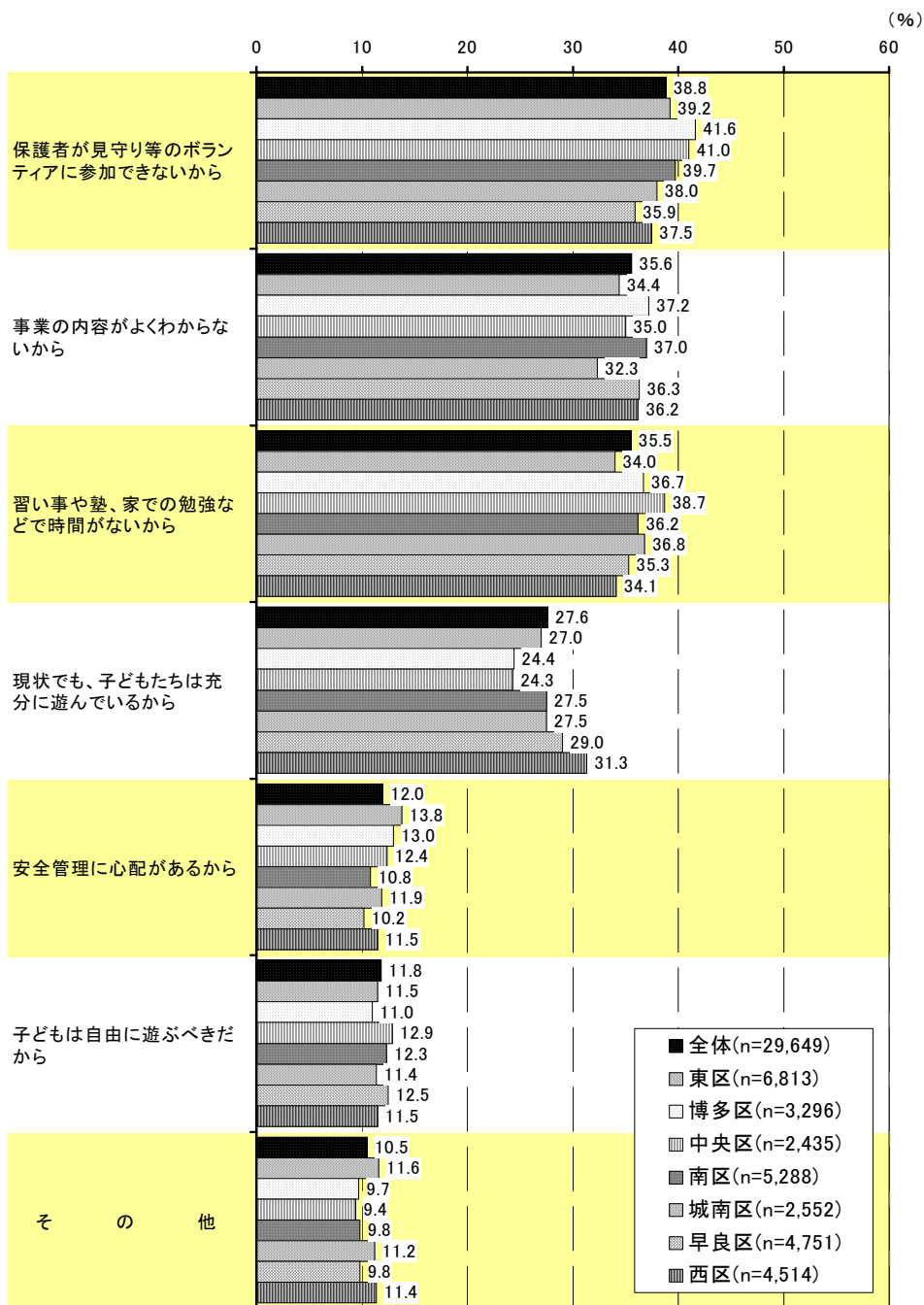


第3章 調査結果

《区別参加させたくない理由》

都心部の博多区、中央区において、「現状でも、子どもたちは十分に遊んでいるから」の比率が、相対的に低くなっている。

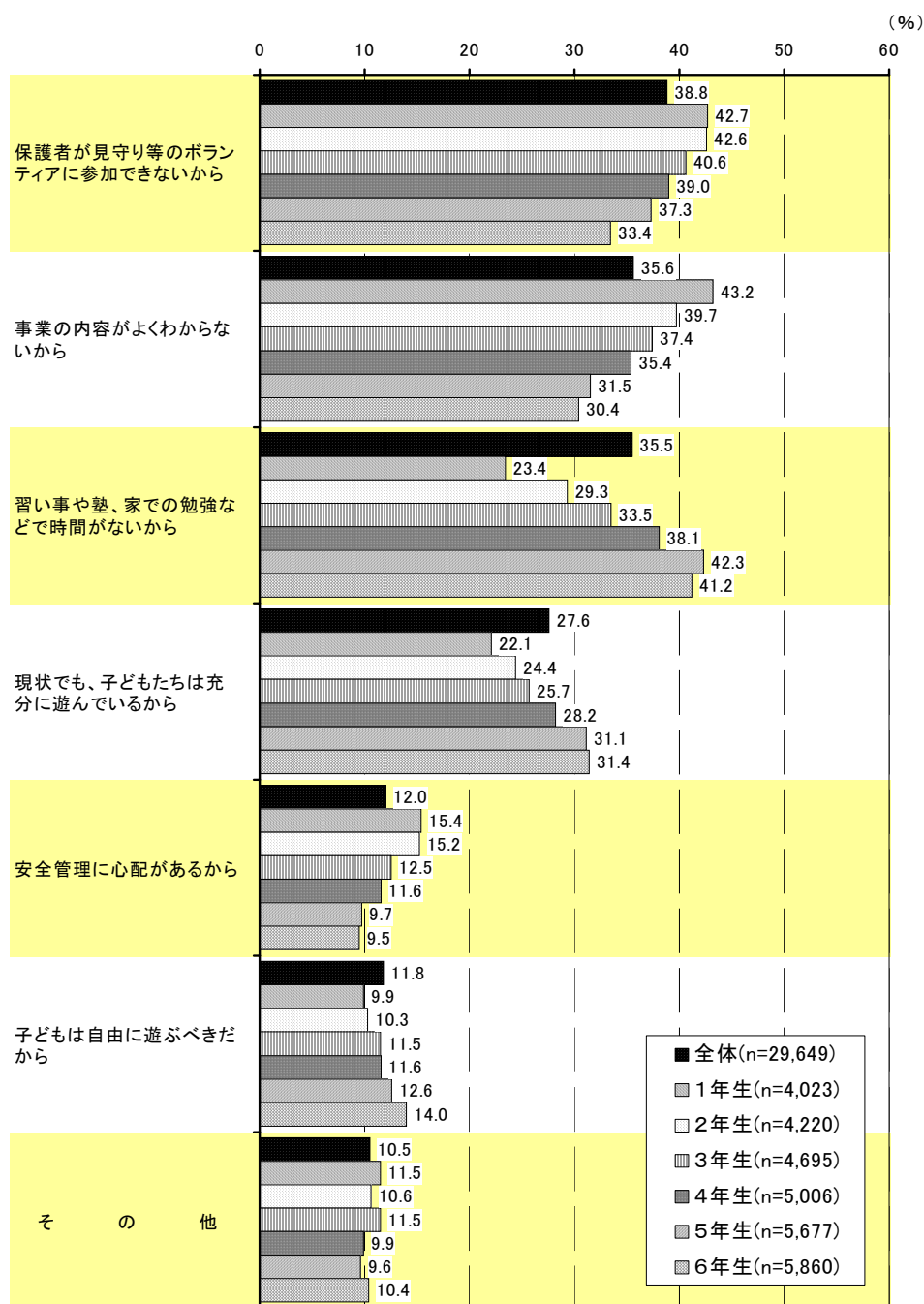
図 参加させたくない理由（区別）



《学年別参加させたくない理由》

低学年においては、高学年に比べて、「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから」、「事業の内容がよくわからないから」、「安全管理に心配があるから」が多く、逆に高学年においては、低学年に比べ「習い事や塾、家での勉強などで時間がないから」、「現状でも、子どもたちは十分に遊んでいるから」、「子どもは自由に遊ぶべきだから」が多くなっている。

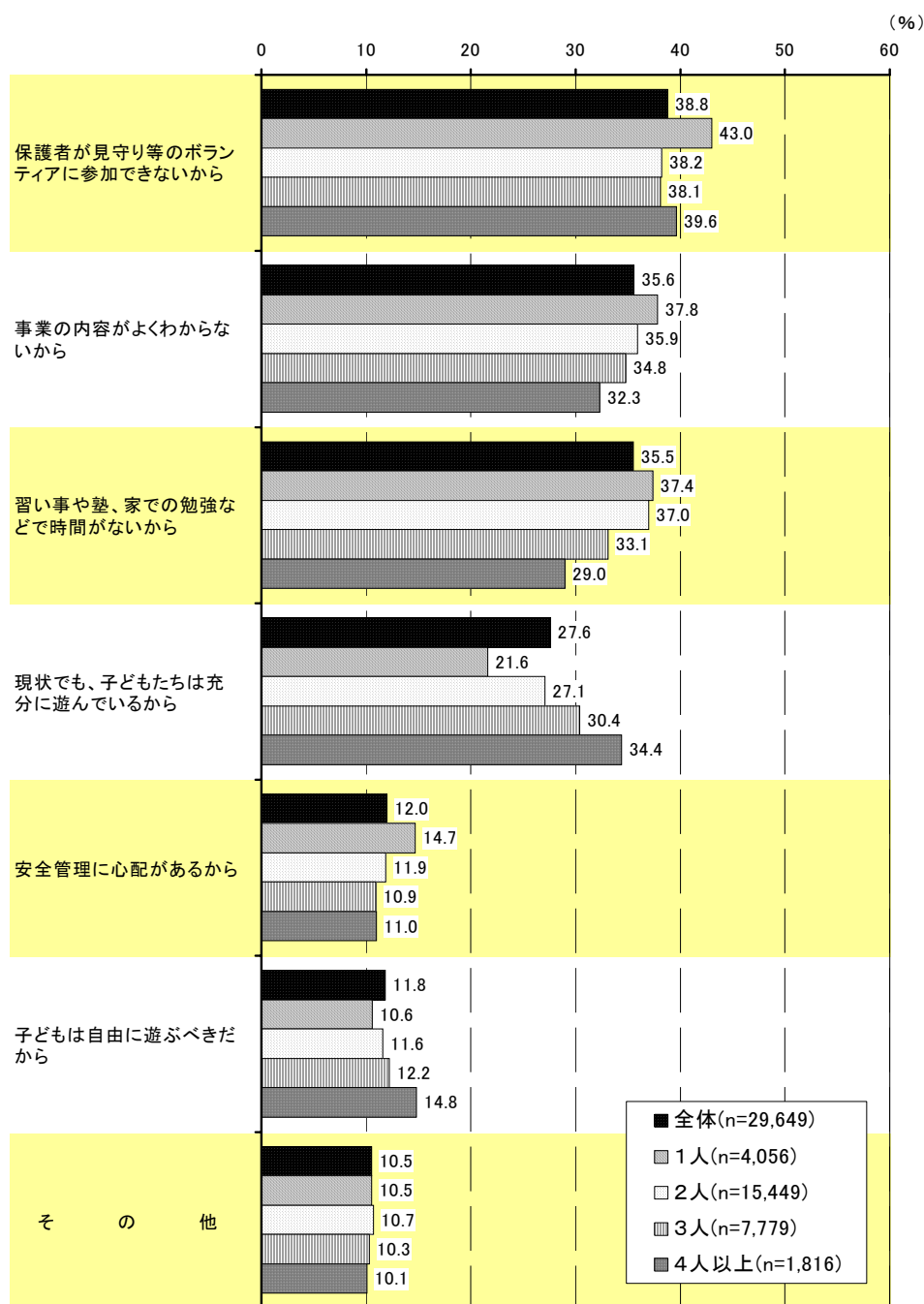
図 参加させたくない理由（学年別）



《兄弟姉妹人数別参加させたくない理由》

兄弟・姉妹の人数が少ないほど、多い家庭に比べて「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから」、「事業の内容がよくわからないから」「習い事や塾、家での勉強などで時間がないから」、「安全管理に心配があるから」が多く、逆に兄弟・姉妹の人数が多いほど、少ない家庭に比べて「現状でも、子どもは十分に遊んでいるから」、「子どもは自由に遊ぶべきだから」が多くなっている。

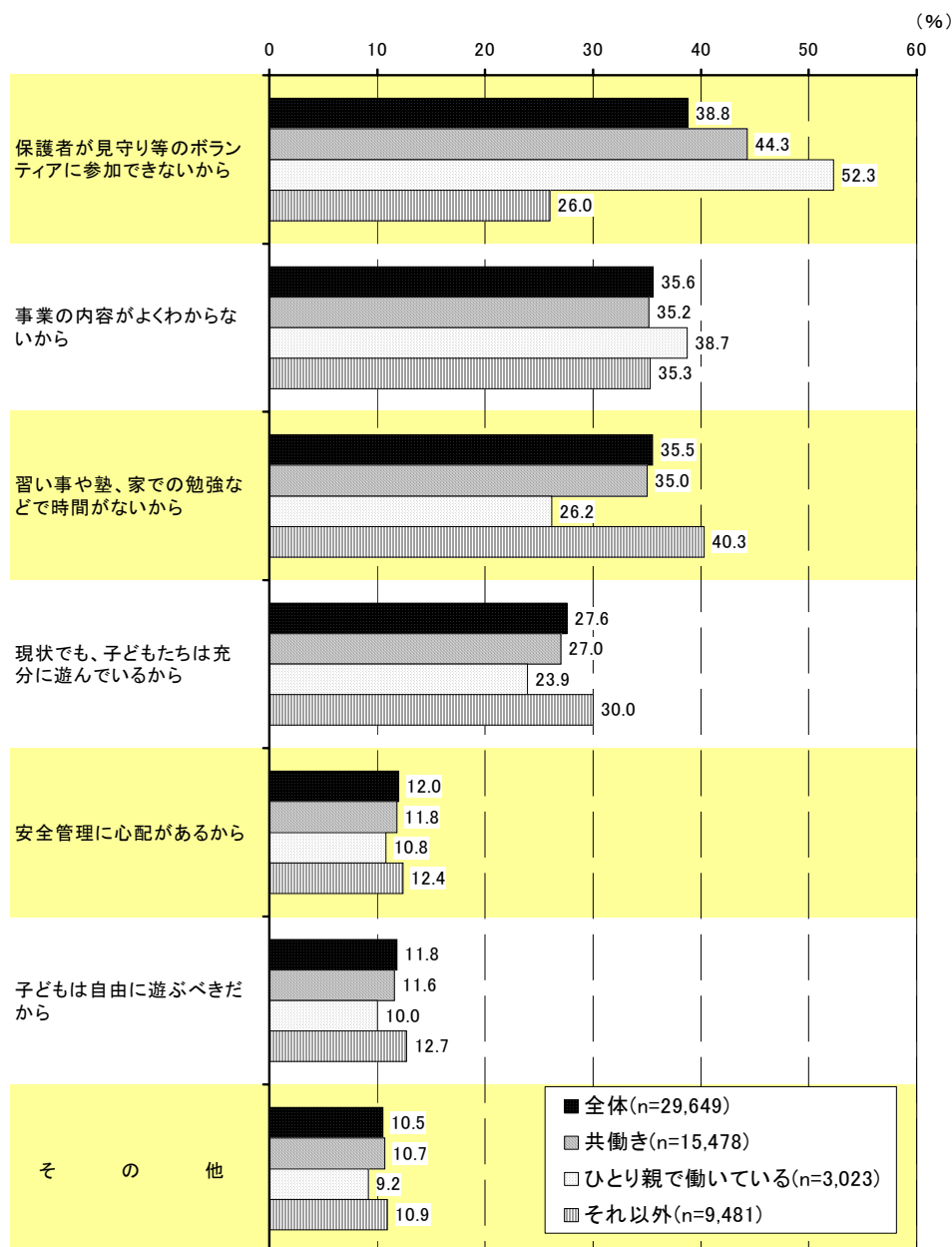
図 参加させたくない理由（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別参加させたくない理由》

「共働き」家庭、「ひとり親で働いている」家庭においては、「それ以外」の家庭に比べて、「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから」が多く、逆に、「習い事や塾、家での勉強などで時間がないから」が少なくなっている。

図 参加させたくない理由（両親就労状況別）



3. ボランティアでの見守りサポーターへの協力意向

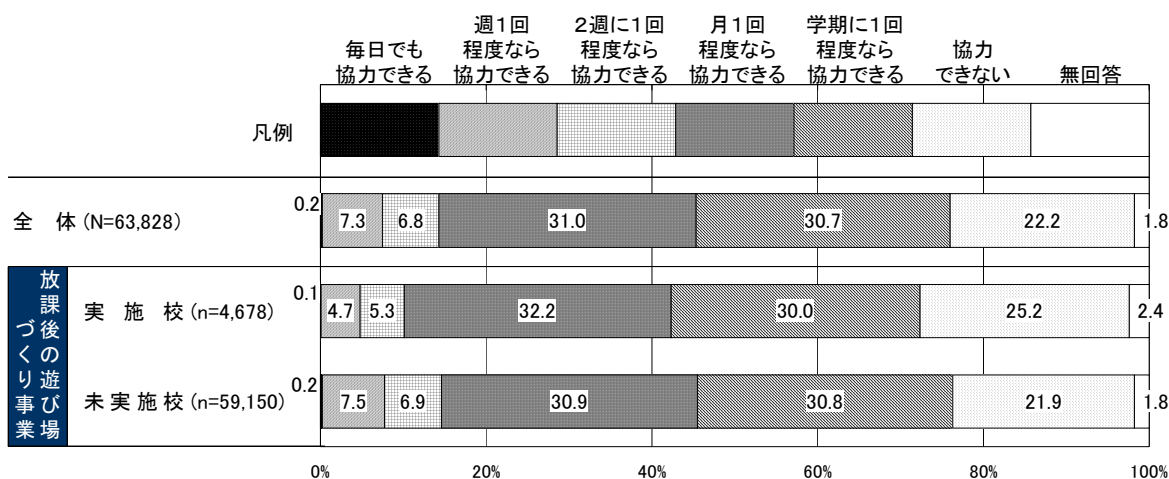
(1) 協力意向

問6 この事業においては、参加されているお子様の保護者の方に、ボランティアで見守りサポーターをお願いしていますが、お子様が通われている学校で事業が実施された場合、どの程度ご協力いただけるとお考えですか。次から1つお選びください。(○は1つだけ)

何らかの頻度「協力できる」と回答した保護者は76.0%にのぼったが、その大半を、「月1回程度」(31.0%)、「学期に1回程度」(30.7%)が占めている。

実施校・未実施校別では、実施校の方が「協力できない」がやや多いが、大きな違いは見られない。

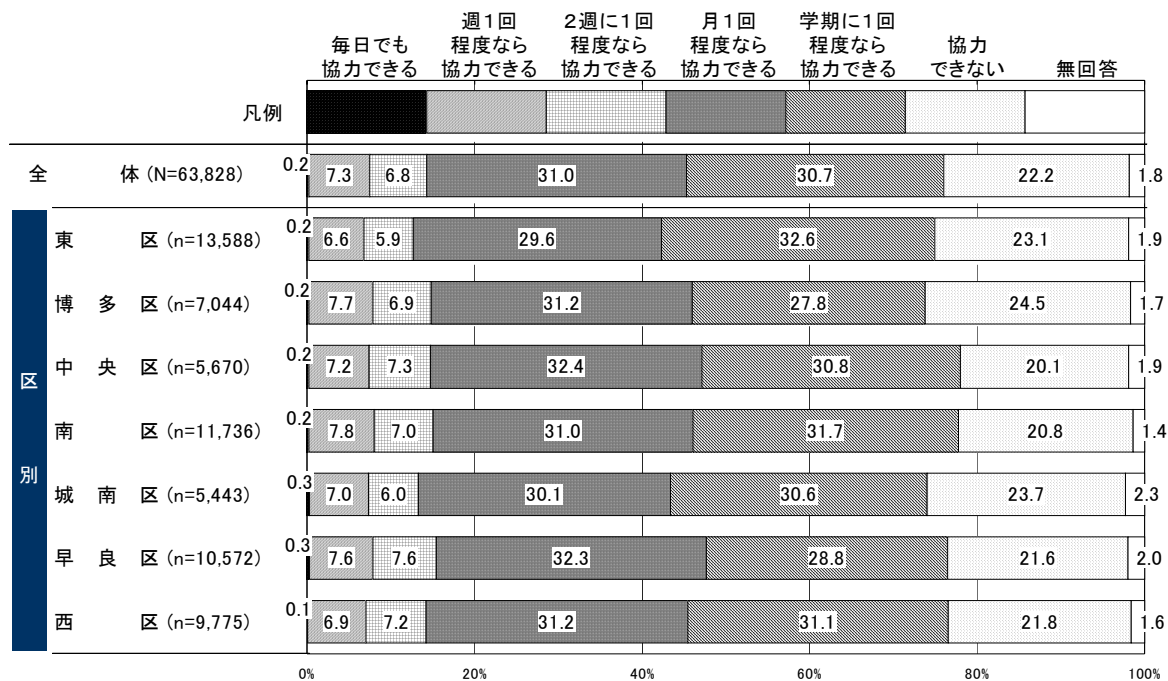
図 協力意向（事業実施別）



《区別協力意向》

特に大きな関連は見られなかった。

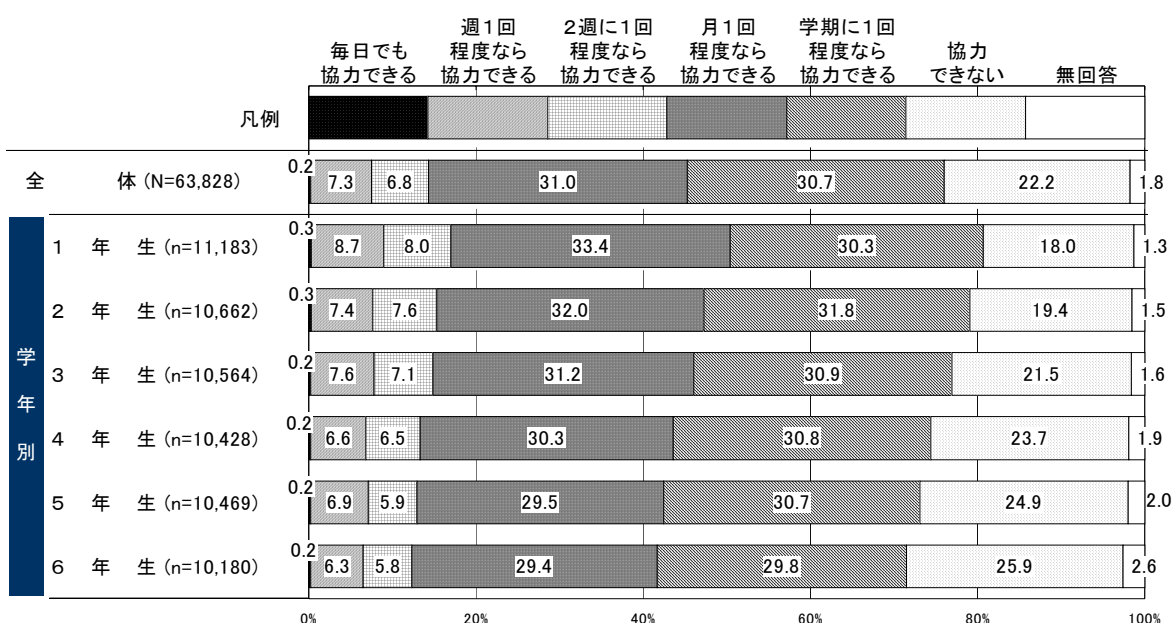
図 協力意向（区別）



《学年別協力意向》

低学年ほど協力意向が高い傾向が見られる一方、高学年ほど「協力できない」の割合が増え、6年生では4人に1人に達している。

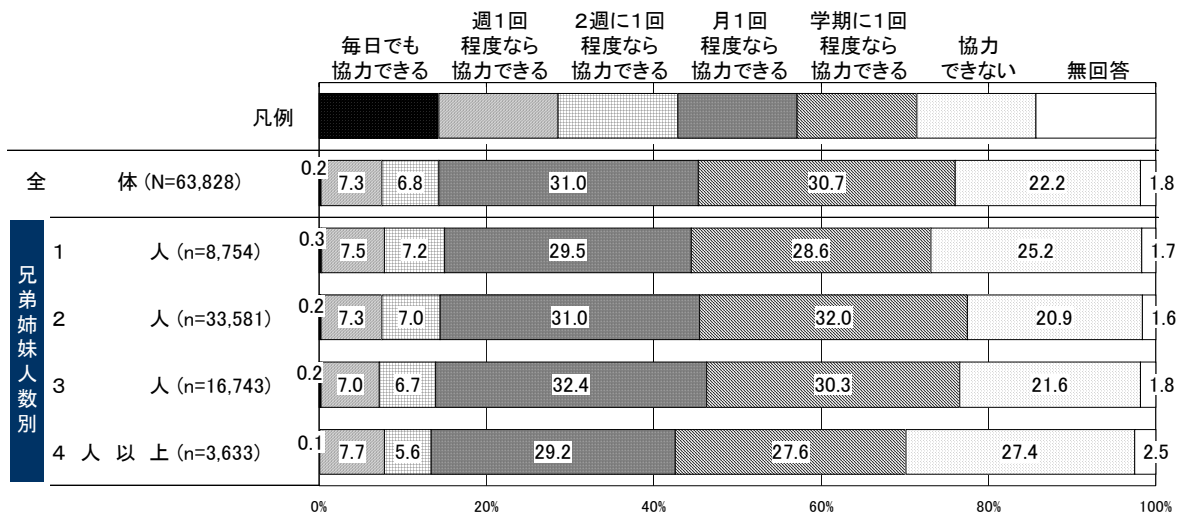
図 協力意向（学年別）



《兄弟姉妹人数別協力意向》

兄弟・姉妹の人数が多いほど、協力意向が低い傾向が見られる。

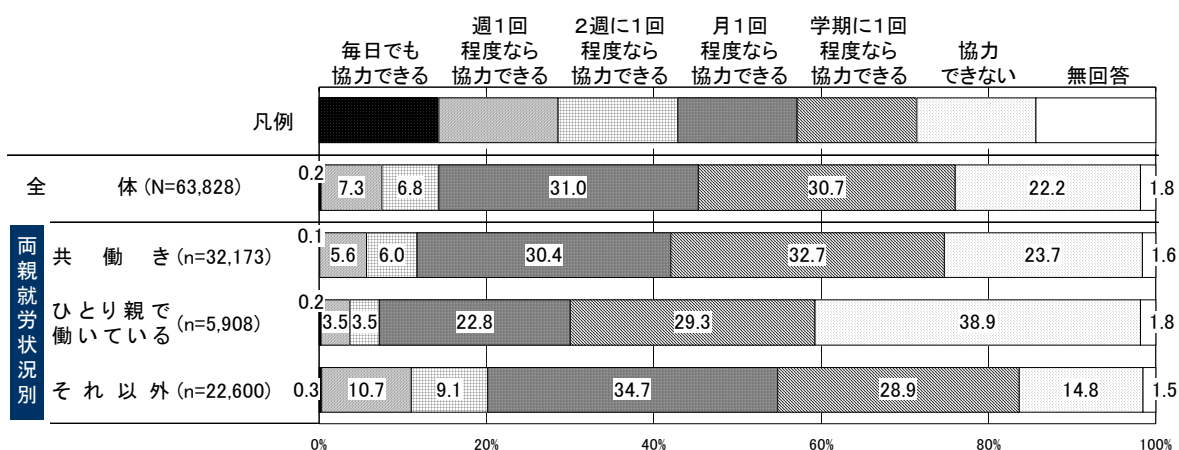
図 協力意向（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別協力意向》

「共働き」家庭と「ひとり親で働いている」家庭、特に「ひとり親で働いている」家庭の協力意向が低くなっている。

図 協力意向（両親就労状況別）



4. 事業内容を検討するにあたり充実させるべき点

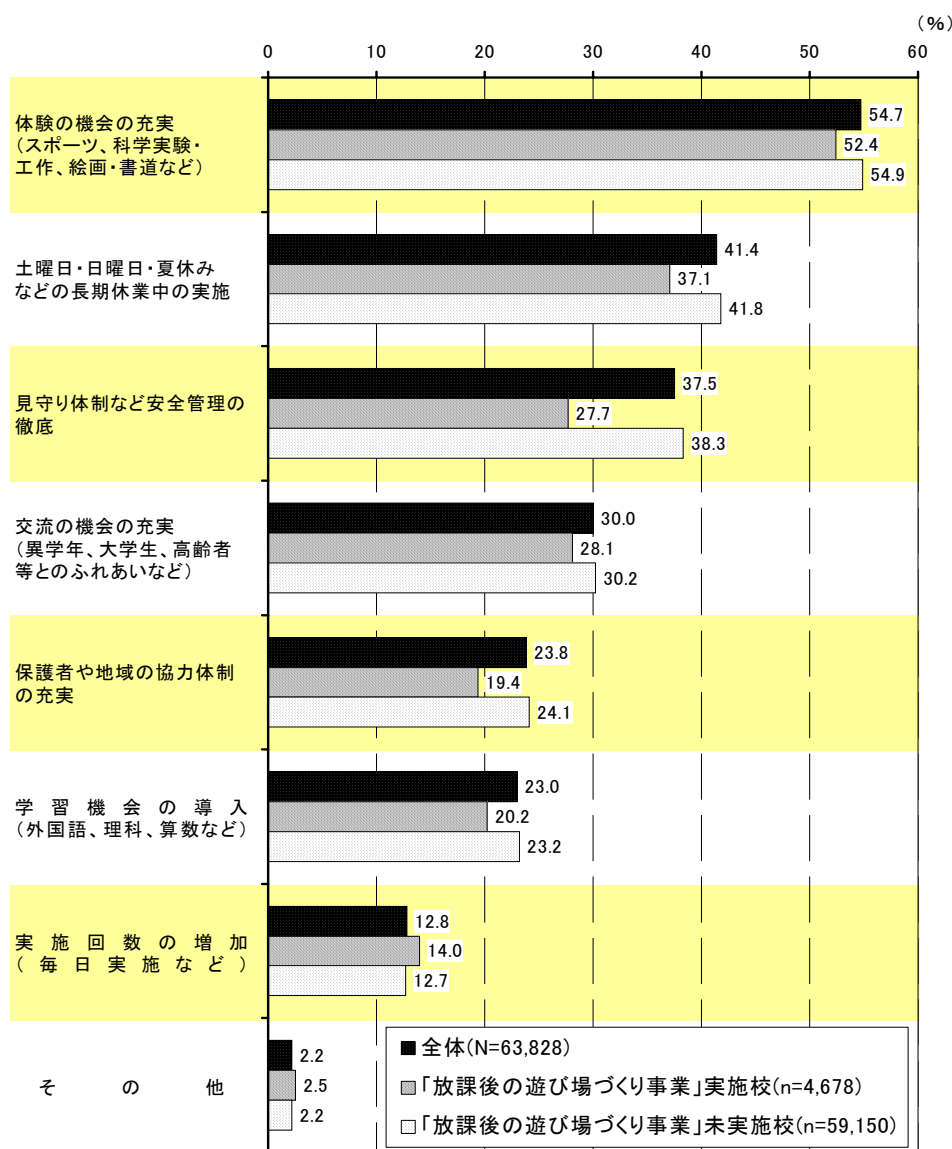
(1) 充実させるべき点

問7 今後事業内容を検討するにあたり、どういった点を充実させるべきだと思いますか。次から当てはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

全体では、「体験の機会の充実(スポーツ、科学実験・工作、絵画・書道など)」(54.7%)、「土曜日・日曜日・夏休みなどの長期休業中の実施」(41.4%)、「見守り体制など安全管理の徹底」(37.5%)の順に多くなっている。

実施校・未実施校の別で見ると、実施校においては、「見守り体制など安全管理の徹底」(27.7%)、「保護者や地域の協力体制の充実」(19.4%)が相対的に低くなっている。

図 充実させるべき点 (事業実施別)

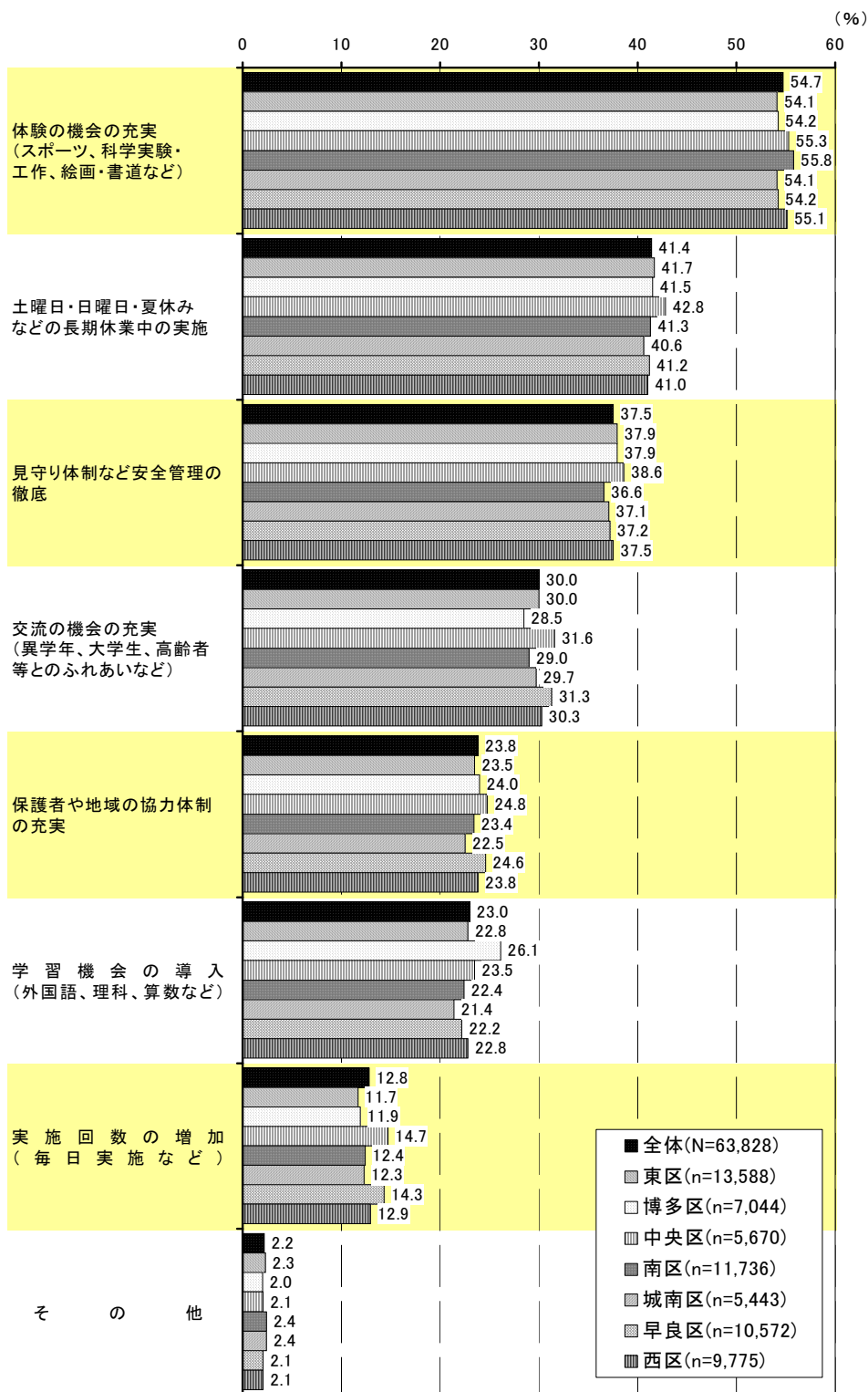


第3章 調査結果

《区別充実させるべき点》

特に大きな関連は見られなかった。

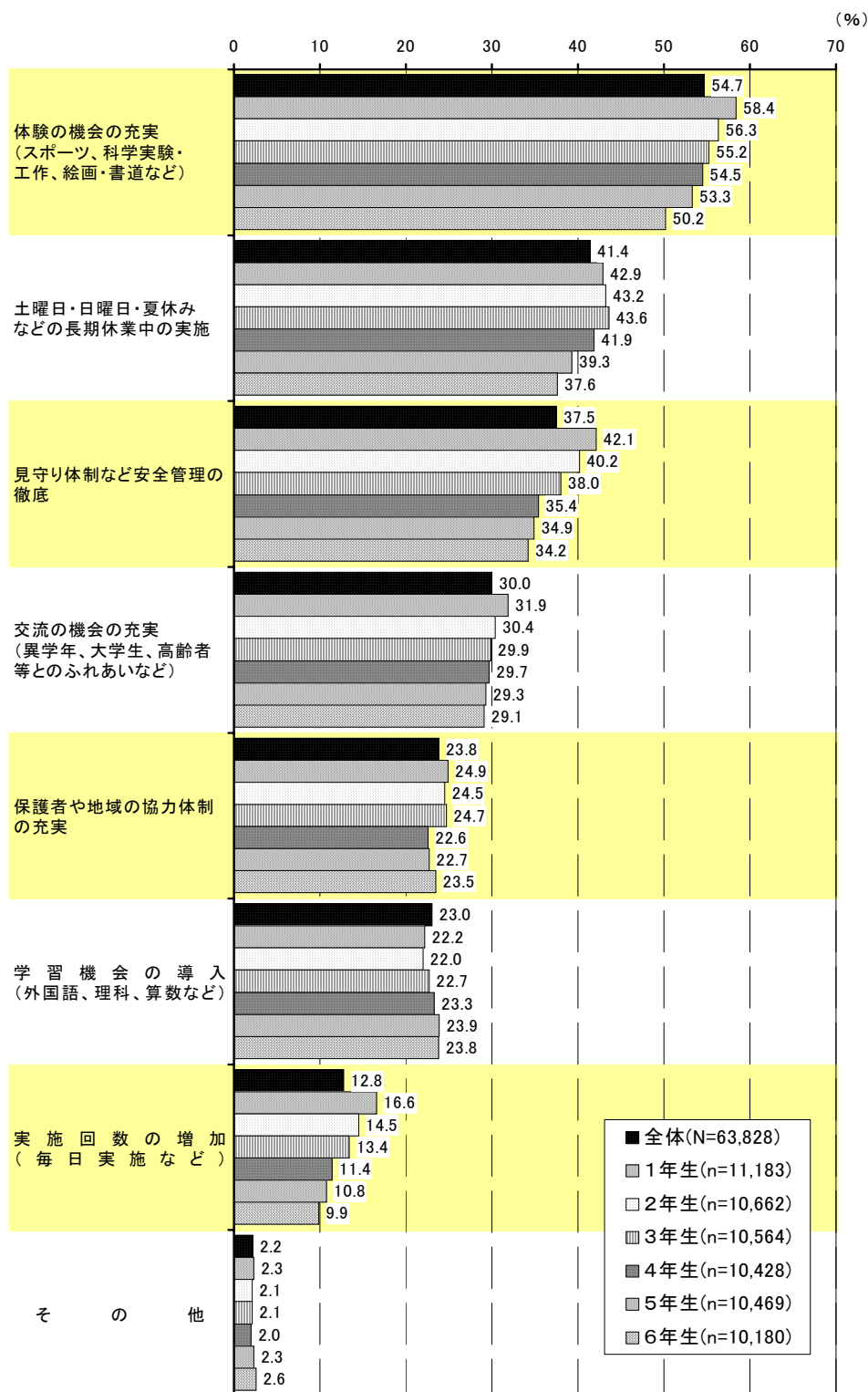
図 充実させるべき点（区別）



《学年別充実させるべき点》

「見守り体制など安全管理の徹底」、「実施回数の増加(毎日実施など)」については、低学年が高学年より相対的に高くなっている。

図 充実させるべき点 (学年別)

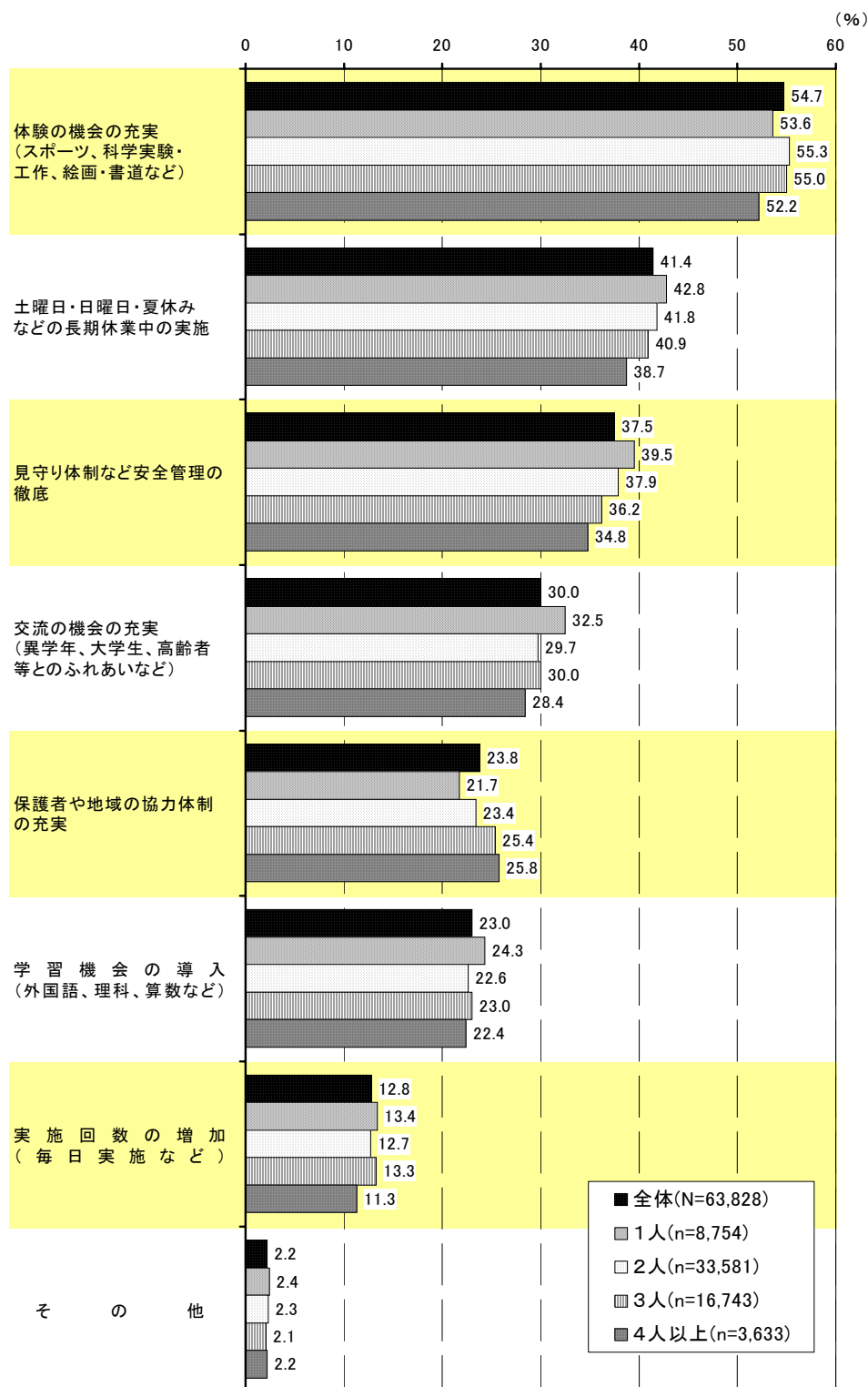


第3章 調査結果

《兄弟姉妹人数別充実させるべき点》

「土曜日・日曜日・夏休みなどの長期休業中の実施」、「見守り体制など安全管理の徹底」については、兄弟・姉妹の人数が少ないほどニーズが高く、「保護者や地域の協力体制の充実」については、兄弟・姉妹の人数が多いほどニーズが高かった。

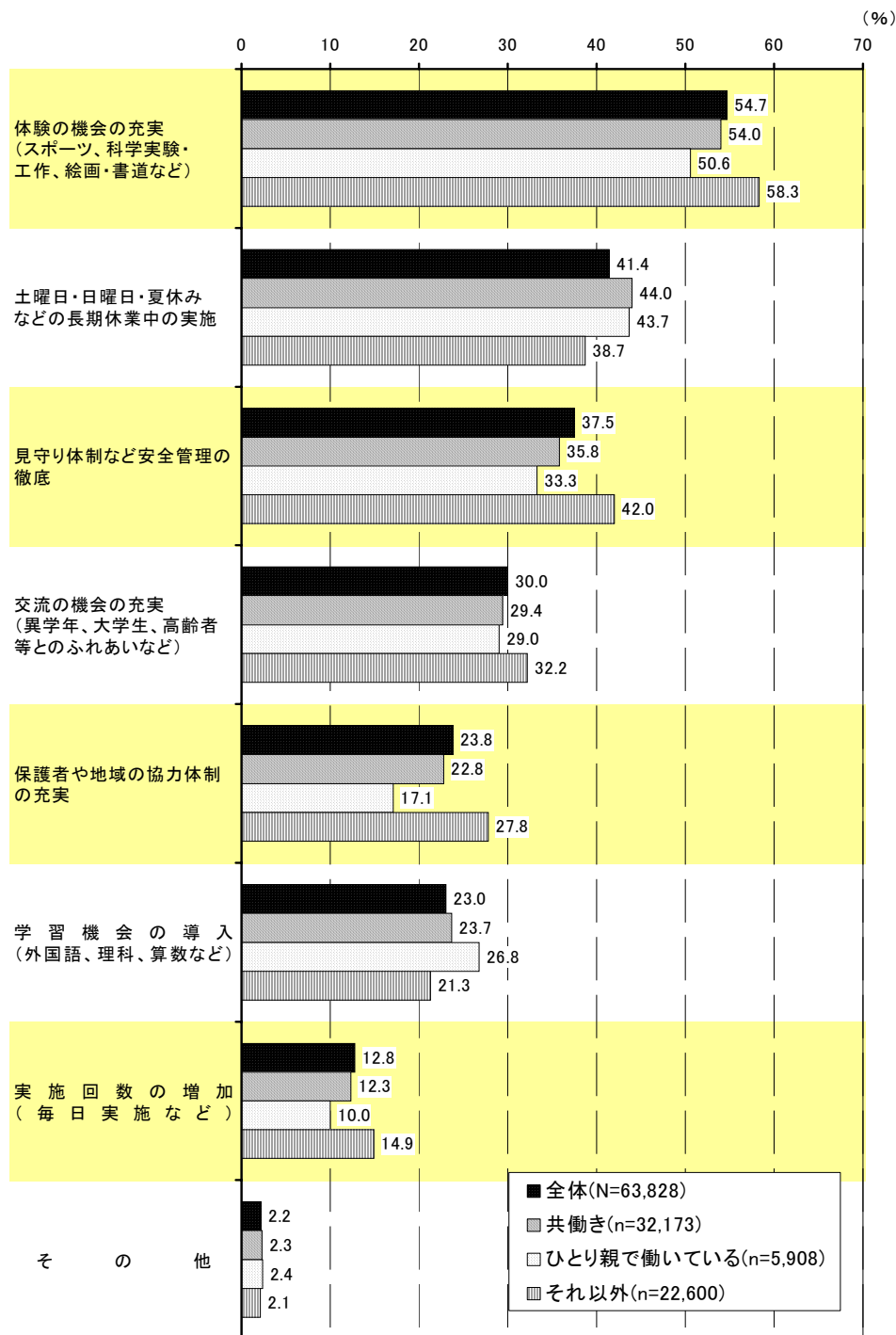
図 充実させるべき点（兄弟姉妹人数別）



《両親就労状況別充実させるべき点》

「共働き」家庭、「ひとり親で働いている」家庭については、「それ以外」の家庭に比べて、「土曜日・日曜日・夏休みなどの長期休業中の実施」、「学習機会の導入(外国語、理科、算数など)」のニーズが相対的に高く、逆に「体験機会の充実(スポーツ、科学実験・工作、絵画・書道)」、「見守りなど安全管理の徹底」のニーズが低くなっている。

図 充実させるべき点（両親就労状況別）



Ⅲ. 自由回答

自由回答については、2,000 サンプルを抽出し、主立った内容ごとに分類整理を行った。

問8 留守家庭子ども会事業についてご意見やご要望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

学年拡大に関する意見が最も多く、全体の 18%を占めた。「制度としては6年生まで利用できるべき」、「上級生が下級生の面倒を見る」などの意見の一方で、「子どもが小さいときは不安だったが一人で留守番できるようになる」、「高学年は帰りが遅いので平日には利用しない」などの意見があった。

次いで、夏休みなどの長期休業中の利用に関する意見が多く(16%)、「高学年は夏休みだけ利用できればよい」、「夏休みだけは早く導入してほしい」などの意見があった。

利用料については、利用料の減額や無料化を求める意見と、自己負担は当然またはさらなる値上げを求める意見がほぼ半々であった。

そのほか、一時・臨時の利用など利用要件の緩和を求める意見、施設設備の整備や指導員体制の充実を求める意見などがあった。

留守家庭子ども会事業に関する自由意見の概要(2000人の抽出集計)

大分類	意見の概要	件数	構成割合	
			全体	大分類
学年拡大		444	18.3%	100%
賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生まで利用したい。できるべき。 ・利用するかどうかわからないが、制度としてはあるべき。 ・兄弟一緒に預けたいので、高学年も受け入れて欲しい。 ・子どもはそれぞれの成長度があり、学年で線引きをするのは良くない。 ・高学年の子がいた方が運営がスムーズになるのでは。 ・上級生に下級生の面倒を見るような考え方を身につけてほしい。 ・子どもが寂しいと思う機会が減り、精神的に良いのでは。 ・ゲームセンターに入り浸ったり、テレビゲームに頼ることがなくなる。 ・今は、安全のために習い事をさせている状態なので助かる。 	322	13.2%	73%
反対	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年は必要ない。そのような子に育てたい。 ・平日は帰りが遅いので必要ない。夏休みだけ利用できればいい。 ・6年生まででは必要ない。せいぜい4年か5年で十分ではないか。 ・子どもが小さいときは不安だったが、一人で留守番できるようになった。 ・交友関係が広がり、自立できるようになるので高学年では必要ないと思う。 ・低学年と高学年では遊びの内容等が違い、様々な問題が出そう。 ・高学年は、別の制度で支援してほしい。 	52	2.1%	12%
どちらとも言えない (注意が必要)	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと対応できるように、施設と体制の整備を。 ・体制整備に向けて利用料を上げるべき。 ・安易に子どもを預けないよう、入会要件・利用条件の設定を。 (入会時の面談、子どもの意思の確認等)。 ・事業が充実するにつれて、家庭から母親が離れていくようで不安。 ・高学年では、子どもは利用したがるらない。子どもの意志を尊重したい。 	70	2.9%	16%

留守家庭子ども会事業に関する自由意見の概要(2000人の抽出集計)

大分類	意見の概要	件数	構成割合	
			全体	大分類
長期休業中の利用		398	16.4%	100%
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年は夏休みに利用できればよい。 ・夏休みだけ、早く導入して欲しい。 ・夏休みは、是非、利用したい。 	169	6.9%	42%
春・冬休み	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みや冬休みも利用したい。 ・長期休業日中は、まる1日、子どもだけで留守番させるのは心配。 ・長期休業中のみ利用区分がなければ、学年拡大は意味がない。(平日は授業のため留守家庭子ども会に行く時間がないため) 	229	9.4%	58%
事業の必要性		305	12.5%	100%
必要	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な事業。安心して仕事ができる。助かった。ありがたい。 ・預けられるだけでいい。多くは望まない。 ・集団でのルールやコミュニケーション能力が身に付いた。 ・異学年での交流がある。様々な行事等を行ってもらえる。 ・長期休業中など規則正しい生活ができる。 	277	11.4%	91%
不要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとってよいのか疑問。親が仕事を優先し、親子関係が希薄になる。 ・何でも行政が担わず、親も必要な負担をすべき(保護者で運営すべき)。 	28	1.2%	9%
サービスの充実		569	23.4%	100%
一時利用	<ul style="list-style-type: none"> ・一時、短期、臨時の利用ができるようにして欲しい。 ・入会条件の緩和を。事情に応じて柔軟に対応して欲しい。 ・保育所並みのサービスは必要。 	313	12.9%	55%
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時の安全確保の充実を。 ・保護者及びスタッフで輪番制で下校時の引率をする必要がある。 ・ボランティアや地域の方で下校時の見守り体制の構築を。 	59	2.4%	19%
長期休業中の条件緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中は、入会条件を緩和して欲しい。 ・長期休業中の開始時間を8:00にして欲しい。 	40	1.6%	7%
おやつ	<ul style="list-style-type: none"> ・安全や栄養を考慮しておやつを決めて欲しい。 ・量より質を重視して欲しい。体によいものを。 ・量は控えめでよい。 	33	1.4%	6%
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・習い事や学習の時間を作って欲しい。 ・夏休み中の弁当置き場の整備を。 ・5時以降のお迎えの緩和を。 ・運営委員会への委員就任を免除して欲しい。 ・留守家庭のない校区があるのは不公平。 ・本当に利用すべき人が利用できるよう入会要件の強化を。 ・学校内だけでなく、校区に何カ所かほしい。 ・長期休業中などの給食、お弁当の実施。 	124	5.1%	22%
指導員		144	5.9%	100%
体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の数を増やすべき。 ・仕事内容に応じて適切な報酬を得るべき。 ・地域の方や大学生ボランティアなどを活用すべき。 	73	3.0%	51%
資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって指導員の資質に差がある。研修等による資質向上を。 ・指導員の資格要件を明確にすべき。 ・男性指導員を増やすべき。元教員を指導員として配置してほしい。 ・定期的に異動させるべき。 ・指導方針や計画を明確にし、指導員間で共有すべき。 	71	2.9%	49%

留守家庭子ども会事業に関する自由意見の概要(2000人の抽出集計)

大分類	中分類	意見の概要	件数	構成割合	
				全体	大分類
利用料			224	9.2%	100%
	自己負担 ・有料化	<ul style="list-style-type: none"> 働く親への支援は不公平。自己負担は当然である。 安易な利用を抑制するためにも、料金をとるべき。 サービス内容が充実するなら、料金は値上げすべき。 	123	5.1%	55%
	減免 ・無料化	<ul style="list-style-type: none"> 利用料が高い。負担が大きい。 新しい補助を検討して欲しい。 利用時間、所得によって利用料を決定してはどうか。 	101	4.2%	45%
施設設備			115	4.7%	100%
	狭隘化 解消	<ul style="list-style-type: none"> 狭い。環境がよくない。 施設整備を充実すべき。 	81	3.3%	70%
	設備充実	<ul style="list-style-type: none"> クーラーを整備すべき。 トイレの数を増やすべき。 	34	1.4%	30%
延長利用			77	3.2%	100%
	充実	<ul style="list-style-type: none"> 20時まで延長できるようにして欲しい。 7時までには間食を準備して欲しい。 	62	2.5%	81%
	反対	<ul style="list-style-type: none"> 安易に長時間預かるべきではない。 延長利用の子どもは可哀想。 	15	0.6%	19%
いじめ			24	1.0%	—
全児童施策			26	1.1%	—
その他			106	4.4%	—
合 計			2432	100.0%	

問9 放課後の遊び場づくり事業についてご意見やご要望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

事業の必要性に関する意見が最も多く、全体の51%を占めたが、そのうち9割は「とてもいい事業」、「自分の学校でもやってほしい」といった肯定的な意見であり、1割は「大人が遊びに関与すべきではない」、「校庭の開放程度で十分」といった否定的な意見であった。

次いで、保護者・地域の協力についての意見が多く(12%)、そのうち3割は「自分も協力したい」、「保護者、地域が協力すべき」といった肯定的な意見で、7割は「仕事を持っているので協力できない」、「ボランティアに頼るべきではない」といった否定的な意見であった。

そのほか、遊びのプログラムや学習などの実施内容の充実を求める意見や、安全管理への不安、充実を求める意見などがあつた。

放課後の遊び場づくり事業に関する自由意見の概要(2000人の抽出集計)

大分類	中分類	意見の概要	件数	構成割合	
				全体	大分類
事業の必要性			1130	51.2%	100%
必要	必要	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの少ない今の時代には必要。子どもの健全育成につながる。 いつでも安心して遊べる場が必要。公園も子どもだけでは心配。 今の子どもは運動量が少ないので、体を動かす機会が必要。 自分たちの学校で実施されたら、大いに活用したい。 全ての小学校で実施してほしい。 人とのふれあいを知らないままだと、きれる子どもが増えそうで心配。 いつでも安全に安心して遊べる場所が必要。 子どもの健全育成につながる。 安全管理も大切だが、第1に遊び場を作ることが重要。 今の子は群れて遊ばず、ゲームばかりなので、この事業は有意義。 	987	44.7%	87%
	不要	<ul style="list-style-type: none"> 過保護すぎて子どもが育たない。遊びに大人が関与すべきではない。 高学年は授業が遅く、塾などで忙しいので、参加する機会は少ない。 運動場の開放だけで十分。 放課後はスポーツ少年団等が運動場を使っており、遊ぶ場所はない。 放課後は保護者が責任を持つべき。 	143	6.5%	13%
運営体制・安全管理			225	10.2%	100%
心配、充実すべき	心配、充実すべき	<ul style="list-style-type: none"> 下校時の安全確保が心配。 不審者がいつ入ってくるかわからず、心配。 安全管理体制をしっかりとしてほしい。 管理者には、教職や保育士など資格を持った信頼できる方を充ててほしい。 	163	7.4%	72%
	自由にすべき	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの自主性、自立性を尊重すべき。 やっではいけないことさえ教えればいい。 安全が何より大事だが、危険のない遊びはない。 あれもだめ、これもだめでは楽しくない場になってしまう。 	62	2.8%	28%
実施場所の拡充			30	1.4%	100%
学校施設の活用	学校施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> 学校の屋内施設も利用できると良い。 雨天時には、体育館や図書館も開放してほしい。 	17	0.8%	57%
	学校以外での実施	<ul style="list-style-type: none"> 学校が家から遠いので、公民館や公園などでも実施してほしい。 地域として広い範囲で考えるべき。 	13	0.6%	43%

放課後の遊び場づくり事業に関する自由意見の概要(2000人の抽出集計)

大分類	意見の概要	件数	構成割合	
			全体	大分類
実施内容		228	10.3%	100%
充実すべき	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や学生のボランティアに参加してほしい。 ・PTAや子ども会と連携する必要がある。 ・高学年にも魅力のある内容にしてほしい。 ・楽しく興味がわき、参加しやすい条件が必要。 ・芸術やスポーツなども提供してほしい。 ・遊びだけでなく、学習の機会も提供してほしい。 ・学年別に内容を考えないと参加者が増えないと思う。 ・異学年、地域の方との交流が必要。 	166	7.5%	73%
自由にすべき(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自主性、自立性を尊重すべき。 ・やっちはいけないことさえ教えればいい。 ・安全が何より大事だが、危険のない遊びはない。 ・あれもだめ、これもだめでは楽しくない場になってしまう。 	62	2.8%	27%
実施日の拡充		75	3.4%	100%
毎日実施すべき	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊べる日が合わないので、毎日実施してほしい。 ・習い事などと重なり参加できないので、毎日実施してほしい。 	19	0.9%	25%
毎日ではなくてよい	<ul style="list-style-type: none"> ・習い事などがあるので毎日しなくていい。 ・週2回程度が良いのではないか。 	8	0.4%	11%
土・日、長期休業中	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の長い土日や長期休業中にいろいろ体験させたい。 ・平日よりも土日や長期休業中の方が参加しやすい。 ・土日に、地域の人とのふれあいをもつのは良いこと。 	48	2.2%	64%
保護者・地域の協力		262	11.9%	100%
賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安全、安心して遊ぶ環境作りには、保護者、地域の協力が不可欠。 ・良い事業なので、できるだけ協力したい。 ・日頃子どもがどのように遊んでいるのか見る機会になって良い。 	79	3.6%	30%
反対	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに協力できないので、子どもだけ行かせるのは気が引ける。 ・ボランティアに頼るべきではない。 ・フルタイムで働いている保護者には無理ではないか。 ・いつも一部の決まった保護者ばかりに負担がかかる。 ・よその子どもの安全にどこまで責任をもつべきか疑問。 	183	8.3%	70%
留守家庭子ども会事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・留守家庭子ども会とは主旨が異なるため、別々に実施すべき。 ・留守家庭子ども会事業と並べて議論されていることに疑問を感じる。 ・留守家庭子ども会の児童も自由に参加できると良い。 ・留守家庭子ども会の児童以外の子どもと交流できる機会となる。 	106	4.8%	100%
制度がよくわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・事業について知らなかった。もっとPRすべき。 ・事業について知る機会を与えてほしい。 	112	5.1%	100%
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や広場など身近に遊べる場所を整備してほしい。 ・民間でやった方が、内容が充実するのでは。 ・子どもの遊び場として児童館を建てるべき。 	101	4.6%	100%
合 計		2207	100.0%	

第4章 調査結果のまとめ

I. 調査方法及び回収状況

1. 調査方法及び回収状況

- ・調査は、平成20年9月に実施した。
- ・調査票は、各小学校において担任教諭を通じて配布・回収した。
- ・全児童75,818人に配布し、63,828人から回答を得た(回収率84%)。

2. 留守家庭子ども会事業について

①対象学年が拡大された場合の利用意向

- ・「4年生以上でも利用したい」と回答した保護者は24.2%で、4人に1人が利用を希望していた(1～3年生31.5%、4年生18.9%、5年生15.4%、6年生15.6%)。
- ・一般に、サービスや事業の「意向調査」では、利用希望が実利用見込みより大きくなる傾向がある。本調査でも、低学年の利用希望では現状の入会率(27.0%、1～3年生)を上まわっていることや、現状の入会率は学年があがるにともない低下していく傾向があることから、実利用見込みを上まわる利用希望が得られているものと推測される。

②利用を希望する学年

- ・「4年生以上でも利用したい」と回答した保護者に、何年生までの利用を希望するかを尋ねたところ、4年生までが20.4%、5年生までが8.3%、6年生までが68.3%であった。
- ・「意向調査」では、利用希望が実利用見込みより大きめに現れる傾向があることや、本市の低学年の入会率、他都市における高学年の入会率とも、学年があがるにともない入会率が低下する傾向を踏まえると、自由意見にもあった「利用するかどうかわからないが、制度としては6年生まで利用できるべき」との意向から、実利用見込みを上まわる利用希望が得られているものと推測される。

③長期休業中だけの利用意向

- ・長期休業中だけの利用区分ができた場合、利用を希望するかを尋ねたところ、ほぼ半数の保護者が利用を希望していた(利用したいが46.1%、利用しないが46.3%)。やはり、「意向調査」では、利用希望が実利用見込みより大きめに現れる傾向があることを考慮しておく必要がある。
- ・学年別の利用希望を見ると、4年生までは全体平均を上まわっており、比較的高かった(1～3年生52.0%、4年生46.5%、5年生38.3%、6年生34.8%)。

④主な自由意見(2,000サンプルを抽出集計)

- ・学年拡大に関しては、その多くが「制度としては6年生まで利用できるべき」などの賛成意見であったが、一方で、「子どもが小さいときは不安だったが一人で留守番できるようなる」、「高学年は帰りが遅いので実際には利用しない」などの意見もあった。
- ・夏休みなどの長期休業中の利用に関する意見も多く、「高学年は夏休みだけ利用できればよい」、「夏休みだけは早く導入して欲しい」などの意見があった。
- ・そのほか、一時・臨時の利用など利用要件の緩和を求める意見、施設設備や指導員体制の充実を求める意見などがあった。

3. 放課後の遊び場づくり事業について

①放課後の遊び場づくり事業の認知状況

・「知っている」が 13.2%、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が 30.5%で、おおむね4割の保護者が事業を認知していたが、内容を理解している人は1割程度であった。

②放課後の遊び場づくり事業への参加意向

- ・過半数の保護者が「参加させたい」と回答(52.2%)。学年別で見ると、低学年ほど参加意向が高かった(1年生 63.0%、2年生 59.2%、3年生 54.4%、4年生 50.6%、5年生 44.4%、6年生 40.5%)。
- ・「参加させたくない」と回答した保護者は 9.0%であり、その理由としては、「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから」(38.8%)、「事業内容がよくわからないから」(35.6%)、「習い事や塾、家での勉強などで時間がないから」(35.5%) (いずれも複数回答)の順が多かった。
- ・事業の実施校(10校)についてみると、「参加させたい」が 37.2%、「参加させたくない」が 24.3%と、未実施校より参加意向が低くなっており、その理由としては、「保護者が見守り等のボランティアに参加できないから(46.7%)」が、未実施校より10ポイント程度高くなっていた。

③見守りサポーター(ボランティア)への協力意向

・ボランティアで見守りサポーターに参加できると回答した保護者は 76.0%にのぼった。うち、「月1回程度」(31.0%)、「学期に1回程度」(30.7%)が大半を占めた。

④充実させるべき事業内容

- ・「体験の機会の充実(スポーツ、科学実験・工作、絵画・書道など)」(54.7%)、「土曜日・日曜日・夏休みなどの長期休業中の実施」(41.4%) (いずれも複数回答)が多かった。
- ・低学年では、「体験機会の充実(スポーツ、科学実験・工作、絵画・書道等)」、「見守り体制など安全管理の徹底」の割合が増加し、高学年では、「学習機会の導入(外国語、理科、算数など)」の割合が増加するなど、学年によりニーズに違いがあった。

⑤主な自由意見(2,000サンプルを抽出集計)

- ・事業の趣旨や必要性に賛同する意見が半数近くを占めており、「自分の学校でも実施して欲しい」などの意見がある一方で、「遊びに大人が関与すべきではない」「校庭開放程度で十分だ」などの意見もあった。
- ・保護者・地域の協力についての意見も多く、「保護者・地域が参加・協力すべき」との意見の一方で、「ボランティアに頼るべきではない」との意見もあった。
- ・そのほか、事業内容の充実の必要や安全管理の徹底、留守家庭子ども会事業との連携等についても、多くの意見があり、賛否両論の非常に多様な意見があった。

◆参考資料（調査票）

保護者のみなさまへ

子どもの放課後の居場所づくりに関するアンケートご協力のお願い （「留守家庭子ども会事業」と「放課後の遊び場づくり事業」の充実に向けて）

このたび、福岡市の「留守家庭子ども会事業」と「放課後の遊び場づくり事業」について、アンケート調査を実施し、今後の両事業の充実に向けて、活用させていただきたいと考えておりますので、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、このアンケートは、福岡市立小学校のすべての児童の保護者の方にお願いしております。

福岡市こども未来局こども育成課
電 話：711-4236（担当 うで 宇出、なかむら 中村）

【ご記入に際してのお願い】

1. アンケートは、お子様の保護者の方がご記入ください。
2. 2人以上の小学生のお子様がいらっしゃる場合は、お手数ですが、各クラスから渡された別々のアンケート用紙に、それぞれのお子様についてご記入ください。
3. 問1から順にお答えいただき、矢印により指示がある場合は、それに従って付問にお答えください。
4. 選択肢がある場合は、最も近いものの番号に○をお付けください。
5. 「その他」に当てはまる場合は、その番号を○で囲み、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。
6. ご記入が終わりましたら、折って封筒に入れ、お子様の担任の先生に9月8日（月）までにご提出ください。

※質問の回答は、すべて統計的に処理し、個人の意見が特定されるようなことはありません。
個人情報保護には万全を期しますので、ご協力をお願いします。

I お子様についておたずねします。

1. お子様の小学校名を（ ）内に記入し、学年を○で囲んでください。
（ ）小学校の学年： 1年 2年 3年 4年 5年 6年
2. お子様は男の子ですか、女の子ですか、○で囲んでください。
男子 女子
3. お子様は何人兄弟・姉妹の何番目ですか（ ）にご記入ください。
（ ）人兄弟・姉妹の（ ）番目

II 留守家庭子ども会事業についておたずねします。

【留守家庭子ども会事業について】

留守家庭子ども会事業は、保護者が仕事などにより昼間家庭にいない小学1年生から3年生までの児童を対象に、遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図る事業です。

平成20年3月議会において、6年生までの対象学年の拡大が決定されており、現在、実施時期や方法等の検討を行っているところです。

問1 現在、お子様は、留守家庭子ども会を利用されていますか、または、以前利用されていましたか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)

1. 現在、利用している 2. 以前、利用していた 3. これまで利用したことはない

→ ※問1で「1. 現在、利用している」「2. 以前、利用していた」を選ばれた方におたずねします。
問1の付問 現在、利用されている(以前、利用されていた方は最後に利用されていた)利用区分はどれですか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)

1. 平日の午後5時まで 2. 平日の午後5時までと土曜日
3. 平日の午後6時まで 4. 平日の午後6時までと土曜日
5. 平日の午後7時まで 6. 平日の午後7時までと土曜日

問2 留守家庭子ども会の対象学年は、現行では3年生までですが、6年生までに拡大された場合、4年生以上の学年で利用を希望されますか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)
ただし、現行で以下のとおり入会条件があり、また、利用料をいただいています。

1. 4年生以上では利用しない(入会条件に該当しない場合を含む)
2. 4年生以上でも利用したい

【入会条件】

小学校の授業終了後または学校休業日に、保護者などが、仕事などにより家庭にいないことが常態(1か月に15日以上かつ6か月以上継続)である児童

【利用料】

平日午後5時まで	3,000円/月
平日午後5時までと土曜日	5,000円/月
平日午後6時まで	4,000円/月
平日午後6時までと土曜日	6,000円/月
平日午後7時まで	5,000円/月
平日午後7時までと土曜日	7,000円/月

※就学援助を受給されている場合などは、利用料の減免があります。
※利用料に加え、留守家庭子ども会ごとに月額2,000円~3,000円程度の会費(おやつ代等)が必要です。

→ ※問2で「2. 4年生以上でも利用したい」を選ばれた方におたずねします。
問2の付問1 何年生までの利用を希望されますか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)

1. 4年生まで利用したい 2. 5年生まで利用したい
3. 6年生まで利用したい

→ ※同じく問2で「2. 4年生以上でも利用したい」を選ばれた方におたずねします。
問2の付問2 希望される利用区分はどれですか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)
ただし、午後5時を超える利用及び土曜日の利用については、保護者のお迎えが必要です。

1. 平日の午後5時まで 2. 平日の午後5時までと土曜日
3. 平日の午後6時まで 4. 平日の午後6時までと土曜日
5. 平日の午後7時まで 6. 平日の午後7時までと土曜日

問3 現行では、学期中には利用せず、夏休みなどの長期休業中だけ利用できる区分はありませんが、もしこの利用区分ができた場合、利用したいですか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)

1. 長期休業中だけ利用したい 2. 長期休業中だけの利用はしない

Ⅲ 放課後の遊び場づくり事業についておたずねします。

【放課後の遊び場づくり事業について】

「遊び」は、子どもの発達に重要な役割を果たすと言われていたにもかかわらず、遊ばない・遊べない子どもが増えていることから、福岡市では、全ての児童を対象に、放課後の学校施設を活用して安全な遊び場を確保し、子どもたちの健全育成を図る「放課後の遊び場づくり事業」を行っています。10小学校でモデル的に週2回程度実施しており、子どもたちは、ランドセルを置いたまま、プレイリーダーによる遊びの指導や保護者のボランティアによる見守りのもと、自由に遊んでいます。参加費用は無料ですが、保険料などは参加者の負担です。現在、事業の充実を図るため、検討を行っています。

問4 放課後の遊び場づくり事業をご存じですか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)

1. 知っている 2. 聞いたことはあるが、内容はよくわからない 3. 知らない

問5 放課後の遊び場づくり事業が、お子様が通われている小学校で実施された場合、参加させたいと思いますか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)

1. 参加させたい
2. 参加させたいとは思わない
3. よくわからない

→ ※問5で「2. 参加させたいとは思わない」「3. よくわからない」を選ばれた方におたずねします。
問5の付問 それはなぜですか、次から当てはまるものを全て選んでください。(○はいくつでも)

1. 習い事や塾、家での勉強などで時間がないから
2. 保護者が見守り等のボランティアに参加できないから
3. 安全管理に心配があるから
4. 事業の内容がよくわからないから
5. 子どもは自由に遊ぶべきだから
6. 現状でも、子どもたちは十分に遊んでいるから
7. その他()

問6 この事業においては、参加されているお子様の保護者の方に、ボランティアで見守りサポーターをお願いしていますが、お子様が通われている学校で事業が実施された場合、どの程度ご協力いただけるとお考えですか、次から1つお選びください。(○は1つだけ)

1. 毎日でも協力できる 2. 週1回程度なら協力できる
3. 2週に1回程度なら協力できる 4. 月1回程度なら協力できる
5. 学期に1回程度なら協力できる 6. 協力できない

【見守りサポーター】

スタッフの指示の下で、子どもたちが危ないことをしていないか、不審者はいないかなど、安全管理のお手伝いをいただいています。現場には責任者がおりますので、安心してご参加いただけます。

問7 今後、事業内容を検討するにあたり、こういった点を充実させるべきだと思いますか、次から当てはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 実施回数の増加(毎日実施など) |
| 2. 土曜日・日曜日・夏休みなどの長期休業中の実施 |
| 3. 体験の機会の充実(スポーツ、科学実験・工作、絵画・書道など) |
| 4. 交流の機会の充実(異学年、大学生、高齢者等とのふれあいなど) |
| 5. 学習機会の導入(外国語、理科、算数など) |
| 6. 見守り体制など安全管理の徹底 |
| 7. 保護者や地域の協力体制の充実 |
| 8. その他() |

IV ご意見やご要望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

問8 留守家庭子ども会事業について

--

問9 放課後の遊び場づくり事業について

--

※最後に、ご記入いただいた方についておたずねします。差し支えなければ、該当するものに〇を付けてください。

・お子様との続柄：	父	母	その他()			
・年齢：	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
・あなたの就労状況：	仕事をしている	仕事はしていない				
・配偶者の就労状況：	仕事をしている	仕事はしていない	配偶者はいない			

～ご協力、ありがとうございました～